

EB22

67



82409155

社會主義序論

トマス・カーカップ著

[司法大臣官房秘書課記]

国立国会図書館



0034474000

0034474-000

EB22-67

社会主義序論

トマス・カーカップ・著

司法大臣官房秘書課

1928. 3

AGC

34P78

意注扱取

No /

昭和二年三月

社 會 主 義 序 論

著 アツカーカ・スマート

第一章	緒論	一
第二章	過去の經濟的變化	三
第三章	現制度の興起	八
第四章	社會主義の起源	一三
第五章	初期の社會主義	一八
第六章	一八四八年の社會主義	二五
第七章	獨逸の社會主義	二九
第八章	カール・マルクス	三五
第九章	インターナショナル	三九
第十章	一九一四年までの海外に於ける社會主義の進歩	四三
第十一章	戦前イギリスに於ける社會主義	四八
第十二章	無政府主義、サンヂカリズム、ギルドソシアリズム、 ポリシエヴイズム及び共産主義	五二
第十三章	新インターナショナル	五九
第十四章	戦時中及び戦後の社會主義	六五
第十五章	イギリスの勞働政府	七〇
第十六章	新社會秩序	七四



VII
D
22

EB22
67

VII
0

22



司法の職に在る者は平素現下思想界の情勢に付適確なる知識を養ふの必要あるを以て本省は隨時思想界に於て注目し値する著作等を印刷配付し執務上の参考に資せむとす。本書の取扱は特に周密なる注意を以てし苟も關係職員以外の手に移るが如きことなき様配慮あらんことを望む。

昭和三年三月

司法大臣官房秘書課長

82W09155

はしがき

本書の最初の九章は第三版より再録し、多少の改訂増補を爲した。爾餘の大部分、特に最後の四章は新しいものである。只第三版に付てイー、アール、ピースの爲した労作は、出来得る限り、取て以て増補の基礎にしておいた。一九一九年に於ては、第十二章には共産主義に關する何等の説明もなく、書中他の場所で無政府共産主義に付て折々言及せられてはゐたが、其の言及せられたものは常に無政府主義であつて、現時共産主義と稱せらるゝところの教義ではなかつた、思へば興味のあることである。

第十三章に擧げた新インターナショナルの戦後の歴史は、讀者によつては之を餘りに複雑で微に入り細を穿ち過ぎてゐると感ぜられる向もあるかも知れないが、それでも實際の事件に比較すれば却て簡単に過ぎ、重要と考へらるゝことがこれでは澤山省略してある程である。

最後の章は、労働黨、獨立労働黨、労働組合大會、フェビアン協會其の他の代表的團體の發行した最近の刊行物を閱讀して、之を補足したがよい。

一九二五年基督降誕日

ダブリュー・イー・アール

はしがき

社會主義序論

トーマス・カーカツプ著

一九二六年 改訂 增補 第四版

第一章 緒 論

社會主義は近頃迄は大膽な少數思想家の有する一理論であつたが、今日では最も進歩した世界の國々に幾百といふ眞摯にして且熱心な支持者を有して居る。其の發達の外形に於ては幾多の變化動搖を受けながら、最近に至つて驚くべき進歩を遂げたのであつて、今尙依然として各地に擴がり、人の注意を呼んでゐる。

此の顯著なる運動に關し最も驚歎に値するは、全ての人々が之を云爲するに拘らず、之を理解する者に至つては其の數誠に寥々たるものであるといふ餘りにも明白な事實である。世界の勞働階級の中で最も進歩したものゝ間に斯くまで希望を熱意とを生ぜしめた問題が、極めて周到な檢覈を受くべきものと期待するのは理に外れたことなの

であらうか、成程斯様な運動といふものは人から悪し様に取扱はれることはあるかも知れないが、然しそれは感情や偏見、嘲弄、奇論又は術學に適した題目ではあるまい。否最も眞摯な研究事項なのである。

本小冊子の目的とする所は、社會主義に關し明瞭にして不偏不黨の説明を爲すことである。それであるから、大英百科全書（一八八七年）第九版に寄せた「社會主義」に關する記事に於て、又「社會主義研究」及「社會主義史」(兩書共トーマス、カーカツプ著)に於て述べた本問題に關する考を簡單な形で補足する心算である。

本書の様な冊子といふものは主として歴史的で且説明的でなくてはならないものである。それで歴史上の一大運動としての眞の見地から此の問題を呈示することを試み、斷定を下し又は研究を逐ふことは讀者の見る所に従ひ各自の任意に委することとした。

だが然し、若し吾人にして此の大運動に關する研究に依つて充分裨益する所あらんとするならば、事實及理論の單純な記録よりも公平にして同情ある解釋の方が遙に重要であるといふことを忘れてはならない。社會主義の批判及解釋を研究せんと志す讀者は、上述の兩書を参考とするがよい。本書の結論の部分は勞働黨の重要な宣言「勞働と新社會秩序」の解剖より成つてゐるが、事實此宣言は一九一八年以來の英吉利に於ける全社會運動の目的及政策に關する完全にして且有權的な聲明なのである。

社會主義の提議する救濟策の性質及效果に關しては賛成者が殆どないであらうが、現在の社會組織が不完全で改善を要すべきものであることは大抗の人の認むる所であらう。醜穢な貧と不幸とが無責任な富と奢侈と相並んで成す對照は吾人の至る所見受けるところである。投げやりで構ふ者のない小供、失業の爲心萎え氣疲れた壯年期の男、

過勞の爲虚弱となり天壽を俟たずして倒れた男女を吾人は見受ける。田園勞働者の生活は困難な、疲斃した、單調なものである。大都會は大概ひどい物淋しい荒野で、此所での生活状態は健康や希望を増進するものではない、人情、品性と市民道徳との建設を促進するものではない。

斯様な不幸な實狀の原因たるや廣く且複雑である、それは歴史と人生とに深い根を下してゐる。そして此原因が大部分經濟的のものであることに關しては疑問の餘地がない。或る最も初期の研究者にとつては、近代の社會問題は、如何にすれば機械を人間の役に立つやうにすることが出来るかといふ單純な問題に過ぎなかつたのであるが、此の問題は實質に於ては今日尙依然として同一である、現在の巨大な産業の組立ては幾代もの發明家及勞働者がこれほどまでに完全なものとしたのであるが、是は如何にすれば最も深い且最も廣い意味で人類の福祉の増進に最もよく利用することが出来るか。社會主義の解決を試み來つたのは即ち此の問題であつて、これは本質上産業的な則ち經濟的な問題である。社會主義の主要目的は、經濟上の一大變化を生ぜしめんとすることである。

第二章 過去の經濟的變化

社會主義の本質が一の經濟的變化であることは既に之を知つた。過去に於て生じた經濟上の大變化を少しばかり回顧して見れば、一層よく此の問題を適當な見解に従つて理解することが出来るであらう。

人類の主な經濟的必需品は、三の項目の下に包括することが出来るやう、衣、食、住が之である。

極めて古い時代に於ては、人類は血族團體内に共同生活したものと見なければならぬ。各民族又は酋族は夫々勢

力範圍を有して居り、其所で狩獵に依り、漁に依り、野生の果物を集め又は草木の根を掘り出すことに依つて生活資料を得てゐた。彼等の着てゐたものは野獸の皮で出来てゐた。其の住居とする所は洞穴か粗末な小屋かであつた。そして土地は酋族の共有財産であつた。

犬や牛や馬の様な動物を飼ひ馴すことに依つて、大なる進歩が遂げられ、人類は牧畜時代に入つた。史上で最も活動的な地位を占めてゐる國民の中には牧畜時代に屬するものもある。アラビヤ人及其の系統の民族は此の状態に於ける最も興味ある人民の例を示してゐる。けれども農業時代に至る變化は、遙に大なるものがあつた。牧畜時代は一般に水草を逐ふて轉々するものではあるが、粗笨な土地の耕作とは必しも相容れないものではないのであつて、農業は早晚定住生活に至るものである。

初期の農業は、通常、村落に於ける定住生活と相伴つてゐる、即ち、適當な場所で牧場と森林とに圍まれた、よい耕地とよい給水のある所に人々は落着いた。相互防禦、社交、便利のよい範圍内で衣食住及燃料の形となつてゐる經濟上の必需品の供給、こんなことが斯様な社會を作るに當つて考慮に入れなければならない重要な點であつた。土地は尙長い間續いて共有財産であつたけれども、私權の形成と發達とに向ふ傾向は存在してゐた。

斯様な社會状態にあつて、或る場所が防禦、交際殊に交易に付て特種の便益を有するといふ事實があつた。そこで其の場所は一地方全體の中心地たるに適することとなり、人口は普通の村落社會に比して稍大仕掛に集中した。是等恵まれた地に植民が發達し、結成して史上に甚だ名高い都市となつたのである。

さて吾人は、基督紀元前五千年の昔、ユーフラト河及ナイル河の溪谷に、比較的進んだ文明の發達したことを

知つてゐるが、此の古い文明の中では、私有財産、農耕、工業、交易、甚しきに至つては銀行業までも時の進むにつれて發達した。けれども最も緊要な特徴は奴隸制度の發生である。

牧畜生活にも不愉快な仕事はあるのであつて、強者、即ち君王は、どちらかといへば之に關係したくない、そこで牛馬の世話の中賤しい部分は自己の従者に任せる。初期の社會に於ては困難な仕事は婦人の手に歸するのである。昔の戦争では被征服者は殺戮せられ、甚しきは喰はれることもあつたが、然し時の経つにつれて、彼等を殺さないで置いて各種の骨の折れる、卑しい、不愉快な労働な勞働に使役する方がありましたと考へられるやうになつた。

此の政策は、人類が農業時代に移るに及んで特に便利となつた。強者、即ち勇士にして王たる者が、農業に關係ある骨の折れる仕事を好まないのは當然で、従つて奴隸に土地を耕させ、各種の卑しい仕事をやらせたのである。或は勇士の一團は、既に農業時代に入つて驚くべき富の程度に達してゐた人民の領土を襲ふ方がありましたとも考へたことであらう、彼等は之を戦争で打負かして一個の征服行爲で土地と富と奴隸とを得たことであらう。

古代の文明の在つた所は山岳や沙漠の近くにあつて、其所に住んでゐた悍猛で大膽な民族の攻撃を受けるが儘になつてゐたから、今述べた様な出来事は尙更屢々あつた。ユーフラト河やチグリスの溪谷にあるバビロンやニネベ、ナイルの溪谷にあるメンフィスやテーベは、發展して大帝國の所在地となつた都市であつたが、其の文明は奴隸や其の他の形式の強制労働に依て支へられてゐた。然しながら是等の國家は自らは絶えず轉覆と征服の脅威を受けた。古代波斯人は亞細亞の高地の大膽な民族の顯著な一例で、西亞細亞及ナイルの流域にある舊文明國を全て征服してしまつた。古代希臘人の間ではスパルタ人が同様な方法で其の有した土地を征服した。其の歴史を通じてスパルタ人

は臣従人民の間に陣地を占めた軍勢に外ならなかつた。然し最も著しい例は之を土耳其人に於て見ることが出来る。土耳其人は中央亞細亞より發した勇敢な民族で、古い文明の地はハンガリヤに至る迄も全て之を侵略し、幾世紀間も彼等を經濟的搾取の制度に服せしめたのである。

全て古代國家は其の主たる經濟上の基礎として奴隸の勞働力を有してゐた。有名なる交易市のテイーレ、カルタゴは、此の方法で偉大となつたのである。アテネの經濟も同様な基礎を有してゐた。土地を自由に保有する農民は最盛期に於ける羅馬の勢力の主なる要因であつたが、後に共和國の時代になつては大きな地所では奴隸と置き換へられた。

多くの古代の戦争は、實質は奴隸狩であつた。征服された市の住民の最終審判が賣られて奴隸になることであるのは稀ではなかつた。全て古代の戦争では被征服者を奴隸にすることが大切な出来事であつた。寛仁大度のシーザーが主として政治的理由から行つたガリシヤ戦争の時でさへ、二民族全體が俘虜に賣られた。其の第二次英吉利侵入の後に、シーザーは、俘虜の多數なると船舶の暴風雨に於ける破損との爲に軍隊を二つの航海で率れ歸る決心をした、といつてゐる。アレシアの降伏は實際上ガリシヤ戦争の終となつたのであるが、其の降伏と共に羅馬の軍人は何れも戦利品の分前として一名のガリシヤ人の奴隸を貰つた。

後羅馬共和國の時代になつては、西亞細亞が主な奴隸狩場であつた。デロスの島が北の忌はしい取引の市場で、たつた一日の中に一萬人の奴隸が此の地に陸揚げせられて賣られたといはれてゐる。羅馬の大歴史家モムセン曰く、「羅馬の奴隸の苦しみに比すれば黒奴の苦しみを全部集計するも尙物の數ならず」と。白人奴隸が品性に於ても教化

に於ても往々主人を凌駕してゐたことは之を銘記しなければならない。

羅馬帝國の建設後、奴隸取引は依然として最も重要な商業部門であつたが、奴隸狩の範圍は甚だしく制限された。そこで勞働力の供給を確保せんが爲に、主人は奴隸をより人道的に待遇し殊に其の家族生活を尊敬せざるを得なくなつた。そして態度の緩和は正義親切の道德の増進と相俟つて同一の方向に作用した。其の一結果として土地の耕作者は半奴隸状態に置かれるに至つたが、これは黒奴制度と呼ばれるものに類してゐた。

奴隸制度より農奴制度への變遷は、斯く既に羅馬の世界に於て始まつてゐた。野蠻な獨逸の酋族が羅馬帝國を顛覆した時のこと、彼等は此のやり方を便利なものと考へた。土地の耕作者は新主人に對し勞働と品物とで税を支拂ひ、主人は彼等の爲に政治、戦争、狩獵の役目をした。

羅馬人が英吉利を手離してから後間もなく、英吉利人が獨逸から血族團體をなしてやつて來て此の地に定住し村落社會を作つた。此の植民地が發達し、結成して種々の王國となり、遂に英蘭なる一王國が混沌裡より擡頭し始めた。然し村落社會は依然人民の生活の基礎であり、眞の單位であつた。

アルフレッド王はデーン人との戦争で、部下の身體のいゝ人間の半數は故國に残して土地を耕作せしめ、残り半數を戦争に引具するを以て最善なりとした。此のやり方は特殊の武門階級の必要なることを示したのであつて、ノルマン征服後久しからずして一の特種闘争支配の階級が王の周圍に發生しつゝあつたのである。此階級が其の生活資料を村落社會を形くつてゐる耕作者から仰いだのは當然のことである。

ノルマン人は一〇六六年に上陸し、ヘーステインズの戦で英吉利人を倒し、土人の支配階級と置き換へた。ウ

イリヤム征服王は一の強力な中央政府を建て、國內の秩序を定め、國家を泰山の安きにおいたが、英蘭の地を其の後継者の間に分配した。村落社會は變じて莊園となつた。封建制度に依ては軍務遂行の條件の下に土地が保有せられたのであるが、其の封建制度は、斯の如くにして建設されたのである。

第三章 現制度の興起

羅針盤は十二世紀中に利用されるやうになり、船乗は之に依つて茫々たる大洋に乗出すことが出来るやうになつた。火藥、銃器の發達に依り歐羅巴の人民は他民族を大いに凌駕するに至つた。印刷術の發明と學問の復興とは思想の活動と自由を大ならしめることとなつた。

一四九二年にはコロンブスが亞米利加を發見した。バスコダガマは希望峯を廻航して一四九八年に印度に達した。此兩事件と共に近代的植民と貿易制度とが始まり、漸次全世界に影響を與へたのである。

秩序の強制のよく出来る強力な政府が、十五世紀の終頃までに西歐の主立つた諸國に建設された。一五一七年には宗教改革が獨逸に起つた。封建主義とカトリック教會とを基礎とした中世の社會秩序は、新らしい狀態に對して道を譲り始めた。

是等の運動は一般的な、廣汎な勢力を有してゐたのであるが、茲で一轉して主として英吉利で起つた事柄に注意を向けることにした方がいゝと思ふ。十四世紀の始、英吉利に於ては金錢が耕作者の地主に拂ふ勞力及物品を以てする租税に代りつゝあつた。同世紀の半頃、人口の大半を一掃した黒死病は、勞働者を取引に付て一層有利な地位に

置き轉換の過程を速かにした。農奴制度は十四世紀中に大部分廢れてしまつて、舊封建貴族は一四五五年より一四八五年に至る薔薇戰役で死滅した。

チュードル家の苛酷な支配の下にあつて、朝廷に依存する貴族が封建諸侯に代つた。封建諸侯の權力は、其の戰場に引率し得る騎士の人數と能率とに依つて決定したが、朝廷貴族にとつては土地より徵收し得る収入が重要なものであつた。

羊毛價格の騰貴の爲に、努力を要すること耕作よりも遙に少いところの牧羊が盛になつた。舊耕作者は力と僞購とに依て自己の住地より馳り出された。

次で羅馬よりの分離と僧院の廢止とがあつた。宛然封建諸侯の城廓の如く、宗教の建物は地方生活の繁華な中心地となつてゐて、多數の人民に職業や糊口の道を與へてゐたのである。それで封建制度の没落、僧院の廢止、土地の商業的利用の結果として浮浪人が大變に殖え、之を防ぐ爲に各種の法律が制定されたが殆ど效果は見えなかつた。古い社會秩序は過ぎ去つてしまつた。人民の大部分は以前所有した土地に對する利害關係を失つてしまつた。有名なる大家のソロルド・ローヂャーの評價に依れば、十七世紀の半頃迄に英吉利人民の半數は週間賃銀で生計を立て、ゐた。

海の彼方では、我國の歴史に關して極めて重要な事件が十七世紀中に起つた。即ち、亞米利加での最初の英吉利植民地であるヴァージニアが一六〇七年に出來た。ニュウイングランド植民地の基礎が一六二〇年にビルグリム・フアザースに依つて定められた。印度での最初の英吉利工場や貿易植民が一六一二年にスラットに建設された。けれ

ども是等諸事件の重要さは十八世紀までは表面に現はれなかつた。

一世紀半の間、印度では英吉利人は單なる貿易商人に過ぎなかつた。同地に於ける帝國の基礎は一七五七年プラッシーの戦でクライヴが之を定めたのである。一七五九年にはウルフがクエベックを征伐して北亞米利加で英吉利を優越の地位に置いた。斯て英吉利人は一大帝國を建設し、又、大貿易を開始したのであつて、これは制海權に依つて確保されたのである。

一七七六—八三年の獨立戰爭では亞米利加の植民地を失つたが、然しこの損失は濠洲への植民、印度での征服の進捗、ケープ植民地の獲得に依つて償はれた。

海外領土、制海權、貿易等の發展擴張は、漸進的にして且一貫した徑路であつたことが判るが、此の三者は夫々同一の膨脹過程の一部分で、且此の三者は何れも之と對應する國內の膨脹を基礎としてゐた。國內の膨脹は、世界市場が今や英吉利の物質の爲に開放されてゐるといふの事實を特に意味したのである。

古い製造方法は餘りにも緩慢で飽まで不適當で、新時代の要求には應じ難くなつた。従つて發明に對し一の有力な刺戟が與へらるることとなり、先づ第一に紡績の方法が完全な變化を受けた。紡績機械が舊紡績車に取つて代り次で動力で動かす織物機械が現はれた。是等の發明に使ふ動力は最初は水力が用ひられたが、鐵や鋼に關する相次ぐ發見は遙に直要な變化を將來した。最初はコークスより、次には石炭より鐵を鑄融する新方法は、それだけでも既にワットやステイヴンソンの發明を廣い範圍に應用することが出来るやうにした。蒸汽機關は最初は坑中より水を汲み出すのに利用され、後に回轉運動に應用することが出来ることがワットに依つて知られて、運輸の目的にも

利用されるやうになつた。次でそれは新發明の機械織機、船舶及鐵道に應用せられ、電信の發達之に次いで出でて、製造工業、鑛山業、國內通信、造船業を一變せしめたところの産業革命が完成されたのである。此産業革命は商業革命を伴ひ、商業革命は、卸賣及小賣の方法、銀行、投資、取引を急激に變改した。

斯様な膨脹時代に於ては、利益獲得の希望を主要な動機とする企業好きの人間が、國の内外で特別な好機を與へられたことは、見易き事實である。是等の人々の企業が成功を博する爲には勞働力が必要であつた。で、彼等は諸國の土人を強制して働かせ、土人の勞働力が駄目になると彼等は阿弗利加から黒人の奴隸を連れて來た。

如何に國內に於て中世紀社會の没落と共に多數の人間が其の定住地より逐ひ出されたかは、既に之を述べたが、其の中或は浮浪人、乞食、犯罪者とならざるを得なかつた者もあるが、多くは賃銀勞働者として口を糊するやうになつた。機械工業が起つて來ると、小生産者、例へば手織職人の如きは之と競争が出来なくなつた。小さな小賣商人や店舗商人は、大仕掛な分配組織や大商店に對抗して競争するのが困難となつた。全て是等の影響は、土地と資本とから分離せしめられて賃銀で食つてゐる人間が非常に増加する助けとなつた。斯様にして資本家は多量の勞働力の供給を受け、之を組織して工場其他の大設備に用ゐたのである。

現在の制度に關して茲で述べなければならぬことを要約して見ると次の通りである。

(一) 資本の勢力 往時にあつては澤山な人間は直接土地から生活の資を得てゐて、殆ど資本といふものを有しなかつた。田舎地方では、資本は粗末な建物と農具、播種用の種子、馬や牛や羊より成つてゐたが、今日から見れば甚だ貧弱なものである。都會は最初小さくて其の數も少なかつたが、此所で資本が集積し初めた。けれども都會

に於ても十八世紀の半頃までは矢張りそれは比較的取るに足りないものであつたが、産業革命の進むにつれて資本は工場、倉庫、鐵道、海運、船渠、銀行等に於て發達して來て、遂に之を所有する者は國內での優越權を有するに至つた。

(二) 土地に離れ、資本を有せず、賃銀を以て生計の資とする労働階級が、資本が發達して労働の機會を與ふるに伴ひ、如何に増大したかは既に述べた。

(三) 工場制度の興隆。

(四) 世界市場の發達。

(五) 世界市場に於ける交換を目的とする生産 昔時にありては人は自己の必要及一地方の市場を目的として生産を爲したが、これは農夫、職人、大工、鞆屋、靴工、織物師の何れに付ても同様であつた。然るにこれは全て産業革命にて一變した。

(六) 蒸汽力及電氣力に依て運轉せられる機械の發明と其の不斷の改善。

(七) 絶えず擴大せられる市場の需要に應ずる爲機械に依て供給せられる低廉な物資の多量生産。

(八) 海陸共に運輸通信の驚くべき發達。

(九) 田舎に比較して見た都會の大發展。

(十) 世界市場に於ける新生産品の多量な供給、例へば茶、珈琲、馬鈴薯、玉蜀黍、煙草、護謨等の如し。

(十一) 舊生産品の驚くべき増加 穀類の如き主要な農産物は産出高が甚しく増加し、根の作物と新飼養法との

發見は大いに家畜の改善を招來した、以前は冬季の食料の缺乏の爲に秋になると家畜は殺してしまはねばならなかつたからである。

第四章 社會主義の起源

前諸章に於て、社會經濟史の極簡單な描寫を試みておいたから、讀者は、それが民族對民族、都市對都市、國民對國民の闘争の歴史であることを諒解されたことと思ふ。

最初は單純な生存の爲の闘争であつて、敗北した人間は殺戮せられ、酋族全體が剝滅せられたのである。

次でそれが特權を有する生存の爲の闘争となり、勝利者は被征服者を屈服せしめて奴隸や農奴とした。それは、口にし難い不幸と道徳上の墮落とを伴ふ闘争であつて、勝利者が自己の爲に要求した特權的地位は、却て彼等自身の階級内に懶惰、倨傲、惡徳、墮落を招來した。奴隸制度は其の起源に於ても其の發達に於ても等しく殘忍、惡徳並に道徳上、肉體上の墮落を意味したのである。

成程奴隸制度に賛成して、此の制度は特權階級に政治及文化の高級な事業を爲す餘暇を與へたものといへるかも知れないが、それにしては失費がひどすぎる。政治階級にも産業階級にも、奴隸制度は惡徳と缺陷とを招來し、これは奴隸制度を基本とする社會にとつて遂には破滅を招くものとならねば止まぬものであつて、奴隸の労働に依存する國家は何れも其の内部に衰亡瓦解の種子を包藏してゐる。

現制度の興起に關する章に於て、農奴制度が如何にして消滅したかを述べておいたが、農奴制度は半奴隸状態と

見るべきもので、此の制度の下に於ては土地の耕作者は軍人階級を支持する義務があつた。植民地で生じた黒人の奴隸もやはりもつと近代に至つて消滅してしまつたが、此の黒人の奴隸は生存の爲の闘争の一面であつて、優秀な白色人種が黒人を無理矢理に労働させたのである。

英吉利、佛蘭西及西班牙に於ける強固な中央政府の興起の成果は、臣民間の生存の爲の闘争の制限であつた。即ち、私戦は終を告げた、より正規の裁判制度とより強固な警察とは平和と秩序を強行したのである。

而も生存の爲の闘争は極めて無情な不幸な形で現存制度の下に於ても依然繼續してゐる。現制度の特性は、賃銀労働者を使役する個人資本家に依て産業が行はれることであつて、其の資本家たるや一部又は全部の獨占を確保する爲に競争するか結合するか孰れかする、既に知らるる通り、英吉利の産業革命の一結果として新しい二階級が出来た、生産手段を所有する小階級と、土地も資本も有せず、資本家に仕へて労働に依り生活費を稼がなければならぬ人間の大階級とがそれである。

それであるから、吾人の到達してゐる地位は斯様なものであつて、往々にして相重なる二大階級即ち資本家と労働者と現在あり、其の相互の關係は競争的な需要供給の状態に依て調節せられる。そればかりでなく、資本家は營業の爲に資本家と競争し、労働者は仕事の機會の爲に労働者と競争し、産業は全國的配當の分前の大なることを求めて産業と競争する。労働者は又機械と競争する。何よりも悪いことに、労働者は往々婦人及小兒と競争しなければならぬことがある。

換言すれば、幾分緩和した形ではあるが、今尚依然生存の爲の闘争は續いてゐる。闘争を抑止し緩和するに役立つ法律を強行するに足るだけの強い政府を有する國家に於て、それは行はれてゐるのである。

競争が斯くまで個人的形式をとつてゐることは、現制度の著しい特徴である。即ち、社會の各方面に於て、個人が生存の爲の闘争での立役者である。個人の力と狡猾さとが原始社會の決定的要因であつたのであつて、イスラエル人の間でのダビデ王、古代波斯帝國の建國者キロスは、後代個人の精力と能力とが何を成し遂げ得るかに關する周知の範例である。

イエスキリスト及オーガスタスの一生は、時代の必要と傾向とがある方向に於ける個人の活動に機會を與ふるときは、如何に決定的の變化が達成され得るものであるかを示して居る。之に反しチャーレマンは、其の生存してゐた時勢の制禦し難き勢力を型に嵌めるに付て極めて微温的な成功しか爲すことを得なかつた。個人といふものは、周圍の狀況の有利なる時でなければ大事業を完成することは出来ないものである。

現制度は、産業に於ても商業に於ても、等しく廣汎な機會を個人に與へてゐる。以前優勢であつた束縛や制限は撤去せらるゝか逸脱せらるゝかした。新らしい、一見無制限な利得の機會を有する世界市場 開始に依り、既に述べた如く、發明と労働組織の新方法とに對し、異常な刺戟が與へられた。一八二四年に結社法（一七九九年—一八〇〇年）が廢止せられるまで、労働者は結社權を有せず、從て雇主と個人的に協約しなければならなかつた。

蒸氣機關を改良したゼームス・ワットや、鐵道を作つたジョージ・ステイヴンソンの様な發明家は驚くべき機會を有した。アークライトは發明家で且工場制度の建設者であつた。ジョシア・ウエチウッドは陶器に大改善を施した。斯く全ゆる方面に於て個人の精力と能力とは顯現の餘地を有したのである。然し前線に出て來た多くの人間は

最高の人格を有する人間であつて、多くの者は利得愛好の念に驅られて無情、残酷、無分別の行動をした。

社會主義は其の起源を二つの歴史的變化に有してゐる。一は産業革命であつて、これは既に述べた。一は自由を求め大運動であつて、その最高潮期は佛蘭西革命である。

産業革命は一方に於て多大の恩恵を齎したが、之と同時に多大の害悪を招來した。六七歳或はそれ以下の子供が工場に雇はれ、一日十二時間乃至十五時間働かされたが、その多くは大都會の養育院や慈善會から連れて來られたのであつて、從て世話をして呉れる両親といふものがなかつたのである。彼等は可愛想にもうちやりばなしにせられ、工場の監督にむごたしく打たれることも少なくなかつた。女も男もやはり恐ろしいほど過度の勞働をさせられた。彼等は自己の勞働する條件を支配する力は少しもなかつたのである。

工場の周圍に新都會が發達し、其所では雜閑若しくは保健の方法は無視せられてゐた。何等適當な衛生設備とはなく、幾十の家族は、濕氣の多い、不衛生的な、時々豪雨の後で水の出る地下室の中に住んでゐた。勞働者の主な目的は仕事を見つけることで、其の住む家に付ては殆ど選擇も手入もすることが出来なかつた。

勞働者には安定といふことがなかつた。女や子供が扱ふ機械の方がもつと廉く仕事をする事が出来るから、男は働き口を失ふかも知れず、熱の出る程の過勞の時に次で、仕事も見付からない不景氣がやつて來るといふ始末である。

勞働者は殆ど、否全然教育を有しなかつた、一八七〇年までは國民教育制度がなかつたのであつて、工場制度の始まりつゝあつた時代には、勞働者の子供が教育を受け得る學校は、如何なる種類のものも殆どなかつたのである。

勞働者は投票權を有せず、中央議會でも地方議會でも發言權もなければ、勢力をも有しなかつた。

勞働者には休養慰安の餘暇がなく、骨の折れる勞働にへとく疲れ切つてしまつて、その爲下劣な快樂を逐ふの外は趣味もへちまもないのであつた。

人々は今迄述べて來た様な境遇の下に勞働し生活したのであるから、彼等が身體も頭も心も苦しみ悩んだのに不思議はない。工場制度が起つた時代の大半は、支配者共は亞米利加植民地及佛蘭西との戰爭に従事してゐた。一八〇二年に始まつた工場立法は新産業制度の害悪を抑止するのに役立つたが、害はそれがまだ有效な働きをしない中に生じた。吾人は今尙産業革命の忌むべき結果に悩んでゐるのである。

佛蘭西革命で口火を切られた大變化は、之を權力に對する自由精神の勃興、理性の覺醒、と稱することが出来よう。自由の精神はそれまで長い間英吉利及佛蘭西に於て發達しつゝあつたが、十八世紀中に多くの歐洲諸國に多かれ少なかれ擴がつた。けれどもそれは特に佛蘭西に於て著しく有力なものとなつた、佛蘭西では爲政支配階級たる王と廷臣、貴族、裁判官が、人民の大衆に産業及納税の負荷を課してゐたからである。

一七八九年の巴里に於ける國民議會の會合は、有力なる變化の嚆矢であつて、此の會議で王の特權階級とが顛覆されたのである。數年の中に新佛蘭西が起つて、舊佛蘭西に代つたが、其の變化は恐ろしい混亂、暴行、流血を伴つた。佛蘭西は自國領土内では悲しむべき内亂があり、國境では殆ど歐洲諸國全體と戰爭をしてゐた。

此の戰爭及無政府の期は、軍事的首領ナポレオン・ボナパルトの覇權に終つた、自由の大義は一時信を墜し、人々は秩序を必要と考へ、秩序は軍事的專制を意味した。

斯様にして産業革命及佛蘭西革命の兩革命は、經濟社會上及政治上の舊制度に於ける偏狹不正より世界を解放したのではあつたが、同時に多大の害悪を生ぜしめた。

それであるから、社會主義當面の問題は、簡單にいへば二重のものである、(一)如何にして機械をば人類の福祉に従はしむべきか、(二)如何にして人類の自由を確保し且擴張すべきか。然し此の二重の問題は實は一つであつて即ち、如何にして産業革命のからくりを使つて人類のより良き且より自由なる生活の助けとなすべきかといふ問題である。換言すれば、人が機械の奴隷たるべきか、それとも機械が人に仕うるものとせらるべきであるか。如何にすれば人類の善良にして幸福なる生活と秩序の整つた自由とが佛蘭西革命及産業革命の兩革命より勝ち得らるゝのであるか。

是等重大なる問題に對し、社會主義は如何なる解決を與へてゐるのであるか、之を次に見ようと思ふ。然し、斯る解決を了解するには三つの點を明瞭に念頭に止めておく方が解りがよい。社會主義は、各種の形式の公有及集合的支配に依つて次の事柄を確保するのを目的としてゐる。

- (一) 労働者が團結又は結社に依つて、嘗て個人的闘争で失つた土地及資本の支配を獲得又は回復すること。
- (二) 秩序、經濟及希望が、競争に依て生じた混亂、浪費及士氣沮喪を匡救すべきこと。
- (三) 産業が個人の利得の爲でなく、一般の利益の爲に運行せらるべきこと。

第五章 初期の社會主義

佛蘭西のサン・シモンとフーリエ、英吉利のロバート・オウエーは、之を社會主義の建設者と見ることが出来よう。此の二人の佛蘭西著述家は、革命の混亂中に生活し、實に二人とも革命の犠牲となることを危懼一髮にして免れたのであつて、二人とも新社會秩序の必要を肝に銘じてゐた。オウエーは、非常に若い時代は英吉利一流の紡績業者であつたので、英吉利の産業革命に依つて生じた害悪を経験上知つてゐた。十八世紀の啓蒙と人道との精神は彼の一生の動力であつて、彼は機械が人の奴隷とさればそれが人類の福祉の爲に如何なる貢獻を爲し得るものであるかを知つてゐた。

是等初期の社會主義者は普通の意味でいへば革命的ではなく、支配者及資本家に自己の計畫を實行せんことを訴へたのであつた。フーリエは最初の著書を一八〇八年に公にしたが、多年の間何等の勢力をも有しなかつた。社會主義の眞の濫觴は一八一七年にあるものと見てよからう、此の年はサン・シモンとオウエーの理論が社會主義的方向を確實にとり始めた年である。

サン・シモン

サン・シモンは佛蘭西の極めて舊い有名な貴族の出で、一七六〇年巴里に生れた。彼は一種冒險的な經歷を有してゐた。十九の歳には、他の佛蘭西の貴族と同様、植民地の獨立戦争を援助する爲亞米利加に渡つたことがある。佛蘭西革命中に、土地の投機をやつて少しばかりの財産を作り、恐怖時代にギロチンの危険を蒙つた。別に守銭奴であつたわけではないが、嶄新な研究の生活を送るべき餘裕が得たいと思つたのである。青年時代から天より大任務を授かつてゐる様に思つてゐた。其の先祖のシャール・レマンはある夜の夢に彼の將來の大なることを告げた彼の

従者は、毎朝彼を起してその大事を爲すべきことを想起させるよう命じられてゐた。

一八〇一年にサン・シモンは不幸な結婚をした、その結婚は一年しか続かなかつたが其の間に全財産を蕩盡してしまつた。そして永年貧乏な、不幸な生活を送つた。一時は以前自分の使つたある従者から援助を受けなければならなかつた。一八一三年には皇帝及樞要の人物に對し援助を求め檄を書いて、自分が生活の資としてはパンと水の外何物をも有せず、火さへなしに働かなければならない旨を述べた。晩年になつてからは彼の主な生活資料は家族から貰ふ僅かの扶助料であつた。一八二三年には失望のあまり自殺を計つた。一八二五年に死んだが、残したものは極めて僅少の門弟に過ぎなかつた。

サン・シモンの目的は、産業と科學とを基礎とする新社會秩序の建設であつた。彼は次の如く主張した、中世紀の間廣く行はれた秩序は最早適當でない、佛蘭西革命に於て表はれた自由への欲求は、これまでの處不都合はないが、これは主として消極的で従つて一時的のものである。

新らしい積極的な秩序、科學に依て指導された産業的秩序が必要である。サン・シモンは此の新秩序が如何になるべきものであるかに關しては、只、一般的見解を述べたに過ぎない。それは彼の追従者達、特にバザールがもつと明確に説明した。サン・シモン派に於て論じられたこの社會主義の要點を次に述べよう。

將來の社會發點の秘論は團結の原則である。過去に於て吾人は三つの段階で人が人を搾取するのを見た、奴隸制度、農奴制度及プロレタリアートがこれである。將來に於ける吾人の目的は、「人と人とが結合して地球を搾取すること」でなければならぬ。

現制度の下に於ては、人民の大衆を形つてゐる労働者は、名義上は自由であるが、實質上は資本の所有者の提供する條件を認容せざるを得ないのであつて、さうしなければ餓死しなければならない、労働の道具の別名に過ぎない資本は、ある階級の相續財産である。一つの階級が其の技倆と無關係に資本の便益を相續する。最も人數の多い階級は貧困の全ゆるる不利を相續する、斯様な課罰に値するか否かは何等關係がない。

斯様な状態に對しては唯一の救済策しかない——資本を社會の財産とすることである。この労働の道具の唯一の所有者である國家が、一般の利益の爲に之を支配するか、又は支配されることの監督をする。國家は、教育、裁判及戰爭の爲に既に爲し來つたのと同様の機能を産業の爲にも行ふ。

之を有効に行ふ爲に、國家は眞價の原則に基いて組織される。サン・シモン派のモットーはかうである、「能力に應じて各人へ、労働の成績に應じて各能力へ」。即ち、各人は自己の能力に應じて位置を定められ、その成績に應じて報酬を受ける。尙附加すべきは、婦人は男子と同様の立場にあるべきことである。「社會的個人」とは、男子のみならず、婦人のみにならず、男女なのである。男女は結合して終生の和合を成し、宗教、國家及家族の三重の機能を行使すべきである。

フリーリエー

フリーリエーは、一七七二年東佛蘭西のベサンフンに生れた。父は盛んな呉服屋で、故郷の學校で彼に充分な教育を與へた。フリーリエーは商業旅行者として和蘭及獨逸を訪れ、後里昂に店を出し、其の地で革命中も少しの所でギロチンの厄に遭ふところであつた。

非常に若い頃に、フリーエーは競争制度の弊害に心を惹かれた。五才の時、父の店で何かの品物についてほんとのことを喋つたので叱られた、二十七歳の時には、値段の高くなるのを待つて取つておいた多量の米を臺無しにして使へなくするのが彼の仕事であつた。

彼は、右の様な状態に對する一の救済策を見出すのが自己一生の任務である、と思つた。彼の方法を説明した最初の書物は一八〇八年に公にされたが、其の後多年の間賛成の聲を耳にしなかつた。誠に彼はサン・シモン運動の衰亡後僅に數名の同志を得たに過ぎず、其の時でさへも彼の主義の流行は永續はしなかつた。彼は一八三七年に死没した。

フリーエーは神は全ゆる事物をよく作り上げたのだが、人間が此の創造者の目的を理解し實行しないのだ、と主張した。彼は、引力の法則が、星の輝く天空よりいとか弱い虫けらに至るまで全世界至らざる所ないが、若し吾人が神の秩序に従ひさへすれば人類の社會に於てもそれが支配を爲すであらう、と信じた。吾人の主たる過誤は、單純に自然的なものである感情をば悪いものと見てゐる事實に存する。吾人は感情に對して自由にして自然な進路を附與しなくてはならない。

此の爲には新しい社會的施設を有しなくてはならぬ。フリーエーは彼の所謂フ、ア、ラ、ン、ジ、ユ、なる制度を以て之にあてた。それには一平方リーグの土地に定住し、フ、ア、ラ、ン、ス、テ、ル、と呼ぶ大きな、美しい、便利な建物の中に住む約一萬八千の人間より成る。是等の人々は此所で共同に生活し、其の好む所に従ひ農業なり工業なり共に労働する。職業は屢と變更する機會がある。誰か孤獨生活を欲する者があればそれも出来る。然しそこでは嫉妬、猜疑の理由

も口實もないから、社會生活が當然擇ばれるのであらう。

そこでは選舉された官吏がある、労働は科學的で賃銀を受ける、然し不愉快な仕事は出来るだけ機械でやる。私資本は認容されて一定の割合の利子を受ける。フ、ア、ラ、ン、ジ、ユ、の生産物の中から樂に暮せる最少限はきつと各人にやる。其の残りは一定の割合で労働、資本及技能の間に分配する。

勿論フ、ア、ラ、ン、ジ、ユ、は地方的な仕掛の制度である。然し一度出来れば廣く他のものが眞似をし、段々大きくなつて聯合團體を形づくり遂には全世界に廣がるであらう。

ロバート・オウエン

英吉利社會主義の建設者ロバート・オウエンは、一七七一年ノースウエールズ、モントゴマリーのニウトンに生れた。父はニウトンで馬具師兼金物屋としてさゝやかな商賣をやつてゐた。ロバートの教育は十歳で終つた。

倫敦で商店小僧としての若干の経験の後、オウエンはランカシアに定住し、其所で非常に若い頃英吉利で第一の紡績業者の地位を贏ち得た。それから彼は仲間とクライドの瀑の近方ニウラナークで工場を買ひ、オウエンは最も開明的な主義に基いて經營を爲す決心で、一八〇〇年結婚の後に其の地に赴いた。

彼の事業及博愛兩方面に於ける成功は、驚くべきものがあつた。二千に達する労働者は彼を信頼するようになつた。彼は、時間短縮制を採用し、自己の開いた店で労働者によい衣食を給し、酒の賣行に嚴重な制限をおき、人々に勝れた道徳的習慣を教へた。けれども彼の最大の功は青年達の間にあつた。彼は英吉利で幼児學校を建てた最初の人間である。彼の子供に與へた訓練は温情があり、親切で人道的のものであつた。彼等の舉止が如何に公明、優

美、幸福であるかといふことは、驚きと悦とを以て註目されたのであつた。

労働者の改善上及若者の教育上に於ける最も成功した経験の一舞臺として、ニウラナークの名聲は四海に響いたそれは社會改造家、政治家、王族家等の氣に入りの行脚地となつた、此の地に行脚した王族中の一人に、後年の露西亞皇帝、歐洲に於ける専制主義の堅壘ニコラスがあつた。

彼の見解が明確な社會主義的方向をとり始めたのは一八一七年であつた。ナポレオン戦争の終熄以後世を襲ふた失業と産業の混亂の爲に起つた不幸とは、英吉利に大不安を起させる機會を與へた。救貧法に關する下院の委員會に提出した一報告書に於て、彼は、禍の根源は人の労働と機械との競争に之を見るべきこと、唯一の有効なる救済策は機械が人類の福祉に對し隷従することであること、を示した。此の望ましき機械の人類福祉への隷従は人間の聯合行動に依つてのみ達成することを得る。

廣く起る不幸の救済と正しい原理に基いた社會の改造との爲に、彼は、五百人乃至三千人の團體を適當な廣さの土地に作るべきことを提案した。人々は其の努力を援助すべき最良の機械を有すべきである。農業と工業は、最も廣く最も自由な各種の職業を確保する爲、同一團體中に於て行はれる。斯て人は常に最良の機械を有するのみならず、都會と田舎の生活の長所、田舎の新鮮なる空氣及新鮮なる産物と都會の社會的快樂とを結びつける。是等の團體は増加するであらう、そして聯合して聯盟を形り、全世界を覆ふであらう、とオウエンは信じた。

彼の案は最初はよく此の國に依つて認められた。即ちヴィクトリア女王の父ケント侯の如き主立つた人が彼の力となり、「タイムス」及「モーニングポスト」の如き主立つた新聞までも彼を援助したのであつたが、倫敦のある大

集會で、宗教の既成形式を全て信ぜざる旨を明言したため、人々の怒を買ひ、彼が團體建設の爲に試みた企圖は全て失敗に歸した。

一八二八年後は、彼は最早ニウラナークとは何等の關係も有しなかつた。彼は各種の實驗でその財産を蕩盡した一八五八年、彼は其の生れ故郷で八十七歳の高齡を以て卒したが、青年の頃の赫灼たりし前途と思ひ合せて見ればどう見ても、成し遂げた所は殆どないといつていゝ位であつた。

第六章 一八四八年の社會主義

一八四八年といふ年は革命期で、佛蘭西、伊太利、獨逸、奧太利及匈牙利には其の間に重大な難問があつた。次に一八四八年に熟して來た社會主義に關し説明を與へなくてはならない。

一八三〇年の革命は、佛蘭西に於ては中産階級に權力を與へ、英吉利に於ては一八三二年の改革案が同様の結果を生じた。制限選舉の採用の爲に労働階級は仲間外れにされ、政治的不滿は社會的不幸、失業、食糧の缺乏に依り甚だ重きを加へた。此の不安は英吉利に於てはチャーチズムに、佛蘭西に於ては新らしい形の社會主義に、表はれたのである。

ルイ・ブラン

右の新らしい形の社會主義の建設者はルイ・ブランである。ルイブランは一八一一年マドリッドに生れた、同地で父は當時の西班牙王ヨセフの下にあつて財務總監の地位を有したゐたのである。ルイは巴里で新聞記者及著述家

として有名になつた。其の著「労働組織論」は、其の文體の壯麗なると、社會改造の企圖の單純なると且道德的熱情を以て主張したのことで、佛蘭西労働者の心を奪つたのである。

彼は主張した、社會の改造は政治の改造を俟たずしては行ひ得ない。第一の必要は普通選挙を基礎とする民主國家であり、斯の國家の第一の義務は労働の解放である。

労働の解放の爲には一事の缺けたるがある、即ち労働者は労働の道具——資本を供せられなければならぬ。そこで彼の提案に依れば社會的工場が國家より供せられた資本を以て建設せられなければならぬ。これは一度建設されれば自活の自由を與へられる、而して彼は是等の工場が増加して終には佛蘭西の全産業を包含するに至らんことを望んだ。

一八四八年の革命中ルイ・ブランの計畫は多大の注意を受けた。彼は假政府の一員であつて、尙假政府には外に一名の労働者も席を有してゐたが、彼は自分の案の採用を得るだけの勢力は有しなかつた。其の年に始められた全國的工場は仕事に離れた多數の人間に口を見つけてやる唯一の姑息手段であつたが、ルイ・ブランの推した社會的工場とは徹頭徹尾異つてゐた。一八四八年後は彼は多年英吉利にあつて放浪生活を續けたが、第二帝國の没落と共に佛蘭西に歸國した。彼は一八八二年に死歿した。

ブルードン

社會主義の極めて特異な一形式はブルードンに依つて支持された、ブルードンは、フリーエーと同じく、一八〇九年ベサンソンに生れた。父は醸造桶屋であつたが、彼はかなりの教育を受け、多くの種類の職業をやつて見た後

遂に巴里に落着いた。彼は新聞記者として又一八四八年の騒ぎの年に國會議員として非常に活動した。彼は一八六五年に波亂多き一生を終つた。

ブルードンは「財産とは何ぞや」と名づけらるる論文の著者で、此の問題に對する回答の故に最も名高い、其の回答は、財産は窃盜といふのである。彼は主張した、奴隸制度が人格中の價值あるものを全て破壊するが故に暗殺であるが如く、財産は或一人をして他人の労働の成果をば地代又は利子の形で對價を與へずに奪ふが故に窃盜である。彼は、人は労働に依てのみ労働に、勤務に依てのみ勤務に支拂を爲すことが出来るものと信じた。

ブルードンは社會改造の既成案を有することを發表しなかつた。彼は、自由、正義、平等の第一原理に歸つて行つた。彼は、是等の原理を基礎とする社會を見んことを希つた、其の社會では何人と雖も他人の労働で生活する權利を有する者なく、又全ての人間は自由に労働の道具に近づけ且之を用ふる當つて自由に團結する、といふのである。

自由を信すること甚だ強かつたからして、彼は人に依る人の支配は全て壓迫なりと看做した、全ゆる事物は當事者の自由なる同意に依り爲すべきである。茲に無政府主義の根本原理がある、ブルードンは佛蘭西に於ける無政府主義の建設者であつて、英吉利に於てはトーマス・ゴドウィンが其の著「政治的正義論」に於て多年前無政府主義を論じてゐる。

共產黨宣言

一八四八年に「共產黨の宣言」と稱するパンフレットが公にされた、これはカール・マルクスとフリードリッヒ・

エンゲルスの書いたものである。それは、萬國の労働者に資本家に對する闘争に於て結合せんことを求めてゐる。けれどもこの宣言の原則と目的とを説明するのは後にマルクスの見解を述べる場合にした方がもつと都合がいいと思ふ。

チャーチズム

チャーチズムは、成年男子の選挙権、投票に依る選挙其の他の政治的改革の一要求である。然しチャーチスト運動の眞の目的は、労働階級の爲に、其の社會状態改善の意圖を以て政權の一部を獲得することであつた。其の領袖の一人が言つた様に、それは「ナイフとフォークの問題」であつた。それは食物と仕事との缺乏の爲に惹き起されたもので、これが救済策は、ある程度まで社會主義的傾向を有してゐた。然し眞の社會主義を叫ぶには餘りに曖昧なものであつた。

社會主義の學徒にとつて此の運動に關する主な興味は次の宣明に存する、即ち、労働者が國の富を全て生産するのに、労働者自身は自己の生活をやつと維持するに必要なだけの僅かな分前を得て満足してゐなければならぬ。其の餘利は資本家の手に渡り、資本家は國王、僧侶、貴族、地主、紳士と共に労働者の労働で生活してゐる（一八三五年貧民の守護者）。後來カール・マルクスに依て「餘剩價值」論に進められたのは此の見解である。

英吉利の基督教社會主義

貧民の不幸に關する省察は、一八四八年の基督教社會主義運動を喚び起した。其の首領は英吉利の教會の有名な二人の牧師、モーリスとキングスレイとで、彼等の見解は、「人民の爲の政治」と「クリスチャン、ソーシヤリスト」

紙、並にキングスレイの小説「パン種」と「アルトン・ロック」とに於て多大の文學的威力を以て説明せられた。

此の運動の經濟理論は、巴里に於てフリーエーの理論に通じ其の追隨者となつたラッドローが之を供給した。

彼等は主張した、自由理論は、主として消極的で、社會に對し積極的にして確固たる基礎を與へることが出來ない、社會の眞の紐帯は道德的で精神的のものである。各人各自の爲にするといふ原理たる利己の念は、社會の解體に向ふの傾きがある。

正しく理解せられた社會主義は、基督教が社會改造に適用せられたものである。神の父たること及び人の同胞たることを認むる者は何れも、人が相互の維持者であるやうに作られてゐることを知つてゐるに違ない。此の點からして、基督教の原則に適當な産業の唯一形式は労働の協同又は結合に依存するといふことが生ずる。

それであるから、彼等の實際的大目的は、協同生産社會、即ち、資本を所有し利潤を自分の間に分配する労働者の集まりを建設することであつた。基督教社會主義運動は、多數の前途極めて有望な青年を味方に得たが、其の協同を促進するに付ての實際的成果は微弱であつた。

第七章 獨逸の社會主義

ラッサール

獨逸社會民主主義の建設者フェルジナンド・ラッサールは、一八二五年プレスラウで猶太人を兩親として生れた。父は其の町の昌んな商人で、其の子供にも實業をやらせようと考へてゐた。ところが彼は好んで大學に進み、初め

プレスラウへ、次で伯林に入り、そこで言語學と哲學とを修めた。

彼は巴里を訪問し、其の地で有名な獨逸の詩人ハイネと知り合になつた、ハイネは彼と同じく猶太人で彼の才能精力に對する最高の賞讃の辭を述べた。伯林に歸つてラツサーレはハーツフェルト伯爵夫人と知り合になり、其の夫人の夫に對する争の訴訟事件を引受け、三十六ヶ所の法廷に之を持ち出した揚句、夫人の權利を主張するのに成功した。

一八四八年には進んでライン地方の革命に加はり、多年同地方に住んでゐた。彼は極めて進んだ主張を採用したが、一八六二年までは之を唱導するの機會がなかつた、同年彼は再び伯林に住むようになった。

當時普魯西の總理大臣であつたビスマルクは、陸軍の編制に關聯した問題に關し獨逸自由黨と議論を戦はしてゐた。ラツサーレは労働階級の代表者兼闘士として進んで出た。獨逸の労働者の多數は、自由黨が其の政策中に普通選舉を加へないので之に不満を感じてゐた。そこで彼はラツサーレに誦ふ所あり、ラツサーレは政策に關する明瞭にして有能なる聲明書を彼等に與へた。彼の煽動の成功は彼を鼓舞して一八六三年三月二十三日ライプチヒに獨逸労働者總聯合を建設せしむるに至つた。其の綱領は簡單なもので、一箇條しかない。曰く、平和且適法の方法を以て、特に輿論を征服することに依て、普通選舉制の採用を實現すること。

ラツサーレは、獨逸の労働階級をば如何にして其の感動的雄辯を以て動かすべきかを知つてゐたが、彼の煽動繼續の短期間内には聯合の員數は急激に増加はしなかつた。彼は、一八六三、四年の冬伯林に於て強固な足場を得んが爲に多大の努力をした。著作家として、労働團體の首領として、又普魯西の法廷に自己を辯護するに付て、彼の

活動は大いに其の健康を害した。

一八六四年五月、彼はライン地方で彼の軍隊の大閱兵式を聞いた。これは一種の凱旋行列である、町々を通り、追隨者の歡呼裡に演説をした。次で健康回復の爲に瑞西に赴いたが、其の地で起つた事件は後に彼にとつて宿命的なものとなるに至つた。

ラツサーレが同時代の最も優れた人物の一人であることは疑がない。彼は哲學者であり、學者であつた。彼が十九世紀の全ゆる知識を備へてゐるとの揚言は過言でない。又伯林では彼は世界的な、上流社會の人間として有名であつた。學者ではあつたが、彼は活氣あり且感動的な雄辯の天稟を有し、これは労働階級に對し如何ともし難い魅力を與へた。彼は最も嚇灼たる天稟の才あり、投機にも活動にも向いてゐた。

然しながら、彼は虚榮心、我儘、快樂愛好の念を有せざるにあらず、爲に労働階級の代表者としては不似合であつた。彼は伯林に於て一獨逸婦人に心を引かれたことがあつたが、一八六四年の夏瑞西に於てまた此の婦人と逢つた。二人とも結婚の決心をしたが女の方の父が同意を拒んだ、そして婦人は兩親の壓迫に依つて、今一人の敬慕者ワラキアの伯爵フォン・ラマライソツアの申込を受けることに賛成した。ラツサーレは激怒のあまり婦人の父と其の愛人との果し狀を送り、これが後者の受けるところとなつた。そしてジュネーブで行はれた決闘で致命傷を受け一八六四年八月三十一日死没した。

ラツサーレは主張した、労働階級は世界史上に於ける新紀元の創造者兼支配者たる運命を荷つてゐる。中世紀の間は土地の所有者が自己の利益の爲に支配を爲した。もつと近代になつては資本家階級が漸次擡頭して覇權を掌握

するに至つた。中産階級の支配を招來したところの佛蘭西革命は、既に歐洲先進國に表はれた有力なる事實の宣言に外ならない。然しながら、資本家階級の地位の強さは、最初は自由を求むる競争に於ての人道の戦士として彼等が表はれたことに基いてゐる。

今や彼等は自己の階級の利益の爲に利己政策を追求してゐる。社會に對し進んで有用な仕事を致さうと欲してゐる人士を全て包含して居り、從て人類種族といふと同一である労働者は、一の新しい世紀を將來するであらう。其の大義は一八四八年の革命に於て宣言されてゐる、同年は普通選挙を基礎とする政府が始めて建設された年である。

然しながら現状の下にあつては労働階級は其の大使命を遂行することが出来ない。それは資本を有してゐない。労働者は資本家の下にあつて賃銀の爲に働かねばならない、賃銀とは自己及家族の通常生活費を意味するに外ならぬ。そこでラッサールが多大の論議を費してゐる賃銀鐵則を茲で論じなくてはならない。賃銀鐵則とは何を意味するか。

労働者の平均賃銀は労働者自身及其の家族にとつて必要な通常生活費を給するに過ぎないといふのは、リカルド其の他の經濟學者の説である。若し賃銀にして此の平均以上に上るならば、その結果結婚及出生が増加し、從つて労働の供給が増加する。労働の供給が其の需要に比較して増加すれば賃銀が低下する。賃銀の低下は結婚を抑止する傾向があり、從て労働の供給を少くする傾向がある、これは復た賃銀を昂騰せしむる効果がある。斯様にして賃銀は究極に於ては通常生活費の點に近づく傾があり、それ以上に長い間上つてゐることもなければ、それ以下に

長い間下つてゐることもない。實際の賃銀は需要供給の法則に應じて上下する。

斯様な状態の下に生活してゐるのであるから、労働者は其の大使命を果すに適してゐない。そこで國家が之を援助しなければならぬ。ラッサールは、國家は人類進歩の大運動を支援する義務がある、と主張した。國家の使命は、其の自由となし得る全資源とを以て、自由、文化及道德の道に人類を導くことである。

如何にすれば國家は労働者を援助することが出来るか。ラッサールの案は、労働者は國家より與へられた資本を以て自ら生産の團體を形くるべし、といふにある。労働者の大いに必要とするは資本である、之を給することが國家の義務である。國家が金錢を實際に拂ひ渡すといふことは必しも必要でなく、團體に對する借款を國家が保證すれば足りる。それであるから、國家の信用を有する生産團體なるものがラッサールの考へた案である。

ラッサールは、労働者の地位を改善する方法としては消費組合を信じなかつた。彼は主張した、これは生産者が自己の労働の生産力増加に依て利益を得る爲に生産者として援助せらるべきものである。生産團體の建設は社會問題解決の出發點となるであらう。それは萬能藥ではない。それは、依て以て社會問題の解決が究極に於て實現せらるべき長き改善の道程の開始となるであらう。

斯の如くにして、資本の所有者が支配を爲す権力者であるところの現世紀は、科學に依て指導され、最高の道德理想に依て鼓舞された産業民主主義が覇權を有するところのよりよき時代の爲に道を開くであらう。

ロイドベルタス

注意に値する態様の社會主義は、ロイドベルタスに依て主張せられた、ロイドベルタスは一八〇五年北獨逸のグ

ライスワルトに生れた。父は同地の大學教授で、彼自身も法律家向きに訓練せられたが、彼は土地を買って一八三六年其の地に定住し研究的生活を始めた。

一八四八年の革命期中を除いては、彼は殆ど公事に關係しなかつた。彼は温厚な教養ある學徒で、氣質及信念上革命は勿論煽動運動にも全然反對であつた。彼の一般的態度は、「社會的、君主國的、國家的」であつた。彼はラッサールと同様の經濟的信條を主張した、即ち勞働を價値の根源及手段と見、且「賃銀鐵則」を認めた。然しラッサールの主張したところの國家の援助を有する生産團體には賛成しなかつた。

ロートヘルタスは徹頭徹尾國家社會主義者であつた。彼は愛國者で、獨逸が諸國中に適當な地位を回復したのを喜び、獨逸皇帝が社會的皇帝の使命を身に引受けんことを希つた。彼の企圖は、國家が漸次生産分配の支配を爲し遂に完全にして一般的社會主義が達成せらるべきことであつた。

地主及資本家は、現在の如き國家收入の分前を得てゐる儘にしておくが、生産増加の利益は全部勞働者に渡し、勞働者はきまつた一日の勞働の報酬として法定の賃銀を受けとる、そして賃銀は定期的に改訂せられ、生産の増加に應じて増額し、優良な勞働者は多額な賃銀を受ける。

是等の事項は國家の官吏の手で實行せられる、社會が現存競争制度より収入が勤勞又は能力に相應するところの一般社會主義又は共產主義へ完全に變遷するのは、長期の努力の後にのみ實現し得る。その變遷は人類の倫理的進歩に基くもので、其の實現には五世紀もかかる。斯くロートヘルタスは系統的の國家社會主義を主張したが、そこでは収入は各人の社會に致す勞働又は勤務に左右せられる。

既に述べた如くロートヘルタスは煽動を非なりとした。彼は獨逸の勞働者に如何なる政黨にも關係しないように警告し、彼等が純粹單純な社會黨たらんことを忠告した。彼は一時斯様な黨を作らうと考へたが、これは物にならなかつた。彼は一八七五年に没した。其の書いたものはアドルフ・ワグナー其他の主な獨逸經濟學者に多大の影響を及ぼした、だから是等の人々を通じて獨逸の立法に實際上的影響を及ぼしたと信じても誤ではあるまい。

第八章 カール・マルクス

社會主義の發達に、其の科學的及實際的兩方面に於て最も偉大な影響を及ぼした人間はカール・マルクスである。ラッサールと同じく彼は猶太系の人間で、一八一八年西獨逸のツリエルに生れた。父は法律家で普魯西政府の下で事務所を開いてゐた。

彼の父に關しては、父が其の地位を失ふ虞れがあるので基督教の信仰告白を餘儀なくせられたといふ事實が、若いマルクスの古い記憶の一であつた。後カールはボンヌ及伯林の大學に行つた。彼は哲學の教授としてボンヌに落着く心算であつたが、其の時既に彼の如き氣質及意見を有する青年は普魯西の國では前途の見込が殆どないと考へ始めてゐた。

彼はそこで「レーニシユ・ガゼット」紙の編輯部に入つた、同紙はコロニユで發行された革命新聞である。彼は一八四三年に之を去り、結婚後巴里に赴き、此の地でブルードンに會したが、ブルードンとは經濟問題を論議して夜を徹したものである。彼は又ハイネにも會つた、殊にフリードリヒ・エンゲルスと會つたが、エンゲルスは社

會主義の説明及宣傳に於ける一生の盟友となつた。

一八四三年には佛蘭西から追放されてブラッセルに住むことになつた。彼とエンゲルスとは有名な共產黨の一言を書いた、これは一八四八年に公にされた。同年彼は革命の期間中ラインで多事多難の経験を得た。一八四九年彼は遂に倫敦に定住した。

英吉利定住はマルクスの一生中の決定的な事件であつた。世界最大の都倫敦に於て書籍の蒐集他に比を見ない大英博物館に於て、彼は近代の世界の經濟的發展を研究する爲の材料と機會とを得たのであつたが、倫敦に來て後の長年月を彼と家族とはひどい窮乏に苦しみ、往々食糧の足りないこともあつた。寒さと飢に弱つた時は、マルクスも仲間の亡命者と同じく大英博物館の讀書室の懐しみある暖かさに感謝したのであつた。一八五二年赤貧洗ふが如き時に當つて、一人の小さい娘を失つた。此の娘の世に生れた時は之に搖籃を買つてやる金がなかつたが、棺を買ふ爲には母は佛蘭西の亡命者から二磅の金を借りなければならなかつた。

數年間は彼等は僅か二室の中に住んでゐた。或時の如きは、マルクスは妻の重代物若干を質に入れなくてはならなかつたが、其の中にアルチルの紋章と銘の入つてゐる重い、古い銀の匙があつて、盜賊と間違へられて危ふく逮捕されるところであつた。彼の妻は母方がアルチル侯家の出であつたのである。彼の一生の友エンゲルスは、金も澤山持つて居り、普通樂に生活の出来るに足るだけの金を長い間マルクスに給してゐたのは勿論である。

資本に關する彼の大業の最初にして且最も重要な書冊は、往々社會主義の聖書と呼ばれてゐるが、これは一八六七年に公にされた。彼は一八八三年に死没した。マルクスは多くの人に依り科學的社會主義の元祖と見られてゐる。

彼は、自己の理論は過去及現在の歴史に作用する實際狀態の一般的表現に過ぎず、從て進化の眞の過程に對する科學的觀察に依て得られる、と主張する。然し彼の社會主義は、人類社會の一大變革に向ふが故に、又革命的である。その目的は、既存社會秩序全體の暴力的顛覆に依てのみ達し得る。而してそれは、之を惹き起し之を動かすところの狀態並にそれが生み出す結果が世界の各國に於て作用して居り又は作用するであらうから、國際的である。吾人はカール・マルクスをば、社會主義の科學的解釋者として、又文明世界の勞働者を一種の使命及運命に對し奮起せしむることを目的とする煽動者として、二重の見地から考察しなければならぬ。尤もこれは實際は同一人物の二方面に過ぎない。學者として又異常の實際的精力家として彼は兩種の活動に等しく適してゐたのである。

マルクスが「資本論」と名けた其の大著は、資本の所有者が支配的權力である世紀の歴史の説明と見てよからう。近代社會を動かすところの經濟的法則を示すことがマルクスの目的である。資本は近代社會に於ける優越した力であるから、若し近代社會を説明せんとするならば、資本の發生及進展を説明しなければならぬ。然し資本の發生及進展の秘密は剩餘價值に於て見出される。そこで先づ剩餘價值を理解することによつて始めしなければならぬ。

大經濟學者のアダム・スミスとリカルドに從つて、マルクスは勞働が價值の源泉であると主張した。近代社會の富は商品の莫大なる集まりと見られ、そして此の商品は極めて異つた割合でお互に交換せられる。けれども全て一事の共通なるものがある、即ち是等は人間の勞働の生産品である。是迄はマルクスが何を意味するのかわかることが出来る。

然しながら、剰餘價值を理解する爲には、資本が働くところの條件を明瞭に認識しなければならぬ。其の條件といふのは三重である、(一)生産手段を事實上獨占してゐる階級、(二)自由ではあるが生産手段を有しない労働者の階級、(三)世界市場に於ける交換組織、がなければならぬ。

第三章に於て、是等の條件が如何にして生じたかは既に之を述べたから、次にはマルクスが如何に是等を利用して資本の發生及進展の説明として剰餘價值の理論を作り出すかを見よう。

労働者は労働の道具を有しないので、資本の所有者に雇はれなければならぬ。労働者は自己の労働力を賃銀と交換し、賃銀は労働者に通常生活費を與へる。然るに此の労働力は、資本家が其の工場に於て之を利用する時は、賃銀よりも大なる生産を爲す。労働者に支拂はれる賃銀を超えた、賃銀以上の生産物の價值が即ち剰餘價值である。

此の剰餘價值は、純粹の利得である。工業及商業上の企業に於て資本家に利益を與へるのは此の利得である。資本家は労働し心配してゐる間常に之を念頭に有つてゐるのである。剰餘價值は資本家の動機及出發點である。資本家が絶えず到達せんと努力してゐる決勝點である。剰餘價值は資本主義の始にして且終である。

資本主義が如何にして出來上り、如何に作用するかは既に之を述べた。其の發展は自身の中に内在する法則に従つて進んで來た、將來もそれに従つて進むであらう。資本主義は就中二階級、資本家階級と労働階級の對立を意味する。此の對立の中に、近代史の秘鑰と、將來の社會進化の回轉軸とを見出すのである。

資本主義の最も重要な一特性は、産業及労働の工場組織である。このことは、當然の結果として、特別階級としての労働者の組織及訓練を招來する。けれども工場の外部にあつては無秩序其の他の競争の弊害がある。又商業

界の危機もあつて、此の場合には過剰生産に伴つて恐慌、没落、不景氣、沈滞があり、労働者及社會に對し有害なる影響を及ぼす。

産業の發展に付ては、集中の傾向の増大するを見る。小事業は大事業に併吞せられ、遂には小數の大資本家が覇權を握るに至る。他方に於ては、労働階級の間に不幸、壓迫、奴隸、墮落及搾取が絶えず發達するを見る。

此の過程は、それが社會にとつて堪へられない負荷となる迄は續くであらう。然し資本家階級が最早産業世界を支配することが出來なくなることは明となるであらう。資本主義下の長い苦しい經驗に依て訓練せられ組織せられた労働者の大階級が、政權を握つて労働の道具を受け繼ぐであらう。生産は、既に一の社會的作用となつてしまつてゐて、其の儘認められ、労働者が自己の利益の爲に、即ち社會全體の利益の爲に之を行ふであらう。斯の如くして社會主義は資本主義發展の必然の結果として實現せらるゝであらう。

第九章 インターナショナル

既に述べた如く、昔の形式の社會主義は佛蘭西又は英吉利の理論家を作り出したもので、其の人々は相互の間には殆ど又は全然關係がなかつたのである。而して彼等は夫々派を立て、それは一時若干の勢力を振つてしまふと過ぎ去つて行つた。然しながら、間もなく人々は、社會主義が代位せんとする労働の大義は、重大なる利害を有し、その利害は一國に局限せられずして國際的の性質を有するものであることを見出した。

一八三六年、巴里に住んでゐた亡命獨逸労働者は「義人同盟」と呼ばれる、秘密結社を組織した。彼等は一八三九

年巴里の一揆に關係し、倫敦に移つた。同地に於て彼等は獨逸語を共通語とする北歐諸國の勞働者と會し、同盟は必然的に一種國際的性質を得始めた。

次で其の他の變化が生じた。彼等は周圍の狀態上秘密の叛逆と革命的暴動とが何等役に立たないことを知つた。彼等の眞の事業は宣傳であつたが、其の宣傳を有効ならしめる爲には、彼等の屬する階級の歴史、地位及前途を理解しなければならぬ。そこで彼等はマルクス及其の盟友エンゲルスに指導を乞ふこととなつた。

一八四七年倫敦に於て開かれた大會で、マルクス及エンゲルスの演説があり、兩人は理論的にして實際的なる綱領を起草することを一任された。同時に同盟は此の時共產黨同盟の名稱をとつた。而して右の綱領は一八四八年の初め共產黨同盟の宣言として公にされたのである。

此の宣言は革命的な文書で、後年マルクスが其の資本に關する大著に於て大成した理論を述べてゐる。一八四八年中には多數の同盟員が獨逸の紛亂に積極的に加はつたが、結果は殆ど表はれなかつた。然し、右宣言は、社會主義の革命的方面も古い且最も顯著な表現として多大の影響を與へた。運動の國際的性質を極めて強く高調せられてゐて、次の言葉を以て結ばれてゐる、「プロレタリアの失ふべきものとは鎖の外に何物もない、獲べきものには世界がある。萬國のプロレタリアよ、團結せよ！」。

一八五二年に共產主義同盟は終末を告げた。一八四八年の革命的努力は全然失敗であつたかの觀があつたが、然し政治的及社會狀態の改善運動は間もなく復活した。

普通にインターナショナルと呼ぶるゝ結社起源に時機を與へた事件は一八六二年倫敦の萬國博覽會に始まる。ナ

ボレオン三世の賛成を得て、佛蘭西勞働者の代表が博覽會を訪れた。彼等が英吉利の同胞と親交を得たのは當然である。其の結果少時して、一八六四年九月二十八日倫敦のセントマルチン會堂で各國勞働者の重要な集會が開かれ、此の時五十人より成る臨時委員會が國際結社の憲法起草の爲めに任命せられた。

有名な伊太利の愛國者マツチニーが最初此の任務を引受けたが、満足を與へなかつたのでマルクスが選ばれた。マルクスは、非常に巧に、又共產黨宣言の燃ゆるが如き力と著しい對照をなしたところの穩かな調子を以て、此の義務を果した。

マルクスは、勞働者は一八四八年以來の産業及富の驚くべき大發達に依て何等の利益をも得なかつた、と主張し、又協働組合の成功は勞働者が自己の關係事項を處理し得るの事實を證明したものと主張した。勞働者が勞働の道具を占有する者に經濟上服従するのが各種の屈從、墮落及不幸の根原であるから、勞働階級の經濟的解放といふことが全ゆる政治行動の志さなければならぬところの大目的である。此の問題は國際的のもので、最も進んでゐる各國民の努力の結合と俟つて始めて解決さるべきものである。是等の理由よりして萬國勞働者同盟は建設されたのである。

インターナショナルは、各國の勞働者の結社間の團結及組織的協働の中心たるべき目的で出來たもので、各國の結社は全國的團結を形くるべきことが勸奨せられ、全體の聯合體は總理事會で、これは倫敦に置かれてゐた。各國は同格の幹事一名を以て總理事會に代表せられることであつた。

マルクスと其の盟友とは常にインターナショナルの建設に就てのみならず又其の經營の爲にも指導的地位に立ち

インターナショナルは彼等の手に依つて社會主義理論の形成及宣傳の有力なる道具となつた。一八六六年ジュネーブで開かれた第一回大會に於て、マルクスの起草に係る同盟の憲法が是認せられた。一八六七年ローザンヌで開かれた會社に於て特に一八六八年ブラッセルに於て開かれた大會に於て、インターナショナルの社會主義は遺憾なく説明せられた。

ブラッセルニ於ては、鑛山、森林及土地は運輸通信の機關と共に社會又は民主國家の共有財産とし、協働組合之を經營すべく、尙同組合は一般の利益の爲に機械を管理利用すべきことが決議せられた。労働時間を低減すれば労働者にとつて優良な訓練制度が出来ることにならう。地代、利子又は利潤の形を以てする資本に依る専恣は全て消滅すべきである。

バーゼルに開かれた一八六九年の大會に於ては、相續法廢止の提案が多數を獲ることを得なかつた。佛獨戰爭は巴里に於て開かれる予定であつた一八七〇年の大會を妨げた。コムミューンを始めて起すに就てはインターナショナルは直接關係をしなかつたが、後に奮然賛成の意を表した。それは社會主義的斷起ではなく、その社會主義にとつて面白い點は、それが労働階級の政府で、二ヶ月間巴里に於て支配を爲したといふ事實に主として存する。その失敗は、マルクス自身も言つた様に「労働階級は單に既成の機械を占有して之を自己の目的の爲に運轉せしむることとは出来ない」と謂ふことを示した。

インターナショナルは、其の短い存在期間中に、世界の大大評判となつた。佛蘭西、獨逸、英吉利、伊太利、亞米利加の多數労働者が之に加入した。歐洲の新聞紙も之に多大の注意を拂つた。然しながら、其の眞の勢力及活動方

法、特に財源は、全世界に生ぜしめた恐慌に比すれば小さいもので、爾後衰亡を始めたのである。

其の最後の重要な大會は、一八七二年ヘーグに於て開催、マルクス黨とバクレーン配下の無府主義者との間の闘争が熟して來た。バクレーンは一八六九年インターナショナルに加入したのである。無府主義者は除名せられた。そして同大會で總理事會の位置は紐育に移されたが、これは周圍の狀勢上運動の終局を意味する一段階であつた。それは一八七三年に終末を告げたものといつてよからう。

第十章 一九一四年までの海外に於ける社會主義の進歩

一八六四年ラッサールが死んだ時は、彼の建設した結社は四千六百十人の社員しか有しなかつた。それは數年の間困難危険の經歷を踏んだのである。

此の時期に於て獨逸労働者の間には新生活に關する大波瀾があつた。其の結果の一つは一八六九年アイゼナツハでの社會民主労働者黨の組織である。二人の有名な指導者リーブクネヒトとベーベルの勢力下に、此の黨はマルクスの理論を是認し、インターナショナルに参加し、バーゼル大會に代表者を送つた。

一方ビスマルクは獨逸統一に成功を獲つゝあり、新國家には普通選舉が採用せられた。最初社會黨は選舉に際しては成功を見なかつたのであつたが、一八七四年の選舉では三十四萬の投票を獲得し、九名の議員を選出して、其の勢力の増大せることを示した。

ラッサールの黨とアイゼナツハ黨との間には實際上の差異は實の所殆ど存しなかつたので、一八七五年ゴータの

大會で其の統一が實現された。一八七七年の總選舉では此の統一された黨は殆ど五十萬の投票を獲得したが、此の成功は、彼等が宣傳を爲すに就て用ゐた精力及勇敢と合して、獨逸國內に大恐慌を生ぜしめた。翌年には皇帝の身邊に關し二回に亘る不穩の企圖が行はれ、社會黨は之に關係しなかつたのではあるが、ビスマルクに運動鎮壓の特別法を制定する口實を與へたのであつた。

斯る特別法は、一八七八年に制定せられ、一時は同問題の進展を抑止したかの觀があつたが、然しそれもほんの一時に過ぎなかつた。數年ならずして其の投票の勢力は再び顯著な増加の徴候を示し始め、一八九〇年には百四十二萬七千の多きに達した。一八八八年帝位に即いた幼冲の皇帝は、社會民主黨反對の立法を支持することを拒否しビスマルクは辭職した。そして一八九〇年特別法は消滅した。社會民主黨は鬭争開始當時に三倍する投票力を得て鬭争を終へ、前途洋々たる信念、訓練及組織に關する證明を爲した。

一八九〇年より獨逸社會民主黨は續いて發達した。一八九九年の選舉に於ては得票増加して二百十萬となり、一九〇三年には三百一萬に達し、全數三百九十七名中八十一名の議員を帝國議會に送つた。僅か四十三名の議員を選出したに過ぎない一九〇七年でさへも、其の得票力は三百二十六萬に増加してゐた。一九一二年には得票四百二十五萬三百二十九、議員百十名が帝國議會に送られた。一九一四年には黨は十七萬四千七百五十四名の婦人を含む百八萬五千九百五名の黨員を有し、本部の収入十萬磅に及んだ。九十一の新聞紙其の他の定期刊行物は、全發行部數二百五十萬、正式に黨に附屬し、黨は年次大會、執行委員會及普通事務を執る役員より組織せられてゐた。

大戰勃發當時の黨は斯様なもので、黨の有力且有能の組織がカイゼルの退位に關し如何に黨をして全國の支配を

爲すを得しめたかは之を後章に述べることにしよう。

佛蘭西に於ける社會主義は、コムミューンの倒壊後數年間無爲の状態にあつた。一八七九年頃再び活動が始まつたが、黨は論争と分裂とに攪亂せられ、遂に一八九九年に至つて各黨共相倚つてドレイフス事件に關し共和國を支持するのが得策と考ふるに至つた。主な社會黨の統一の確定は一九〇六年に成つた。一九一〇年の選舉に於ては黨は七十六の議席を得百十二萬五千八百七十七の投票を得た。

隣國白耳義は、方法及政策に關しては、世界の社會主義運動中最先の地位を占めてゐたといつてよからう。同國に於ては最も開明的な政策が採用せられ、その活動は勞働組合及最も成功した協働組合運動と歩調を共にした。白耳義社會黨は一九一二年に於て議會の定員百八十六名の中三十九の議席を保有した。

伊太利社會黨は一八九二年ゼノアの大會で確定的に成立したが、浮沈常なき經歷を有してゐる。それは多數の罷業其の他の騷擾に手を出した。其の農民を組織するに就ての成功は顯著な業績の一つである。政府は時に敵意を懷き、時に同情を與へ、ファシズムの擡頭しない中は時々之を頼りとして支持を求めたこともある。一九〇九年には四十名の社會主義者が五百八名より成る議會に選出せられた。

西班牙にあつては組織された社會主義に有力なものではない。一九一〇年に黨の老巧指導者で勞働總同盟の會長であるセノール・イグレスシアスが選出されて議會に送られた。無政府主義とサンチカリズムとが南部の都市で多數の追隨者を有してゐる。

多數の民族を有する塊句帝國には、小規模ながら極めて活動的な國際社會主義がある。それは民族——獨逸人、

チエック人、波蘭人、伊太人その他——を基礎として全國的の團體に組織せられ、其の一つ一つ何れも完全な自治権を有してゐた。黨は一九〇七年、埃太利で初めて普通選挙に基いて行はれた總選挙で多大の成功を収め、百五萬の投票を得八十七名の議員を議會に送つた。一九一一年には差引四の議席を失つたが維納では三十三名中二十名を得た。黨は暫くの間統一されてゐたが、後相敵對する民族團體に分裂した。匈牙利に於ては政事結社は不法のものなのであるから、黨の組織の口にするに足りないのは當然である。

和蘭に於ては一八九四年以後一の活動的で盛な社會黨があつて、教養のある、藝術的の階級内で同情の眼を以て認められてゐたことは注目し得る。一九一三年には社會黨は議席百の中十九を贏ち得た。丁抹は一八七一年以來一の社會民主黨を有し、同黨は全國的及地方的の諸問題に就て驚くべき影響を及ぼした。一九一三年には社會黨はどの黨よりも多數の投票を得、百十四名の議員中三十二名を選出した。

諸威に於ては一八八七年に労働黨が組織せられ、一九一二年に百二十三名の議員中二十三名を選出した。そして當時八の日刊新聞を有してゐた。瑞典に於ては一八八〇年に社會民主黨が組織せられ、一九〇二年に、後に黨の首領となつたエッチ・ブランディングが最初の社會民主黨員として議會に送られた。一九一四年には八十七名の社會民主黨員が二百三十名より成る議會に選出せられた。

一八七〇年頃露西亞では革新運動が革命的社會主義の形式をとり始めた。此の運動での最も有名な人物はバクーニン及クロボトキン公であつて、何方も露西亞最高の貴族の出で且無政府主義の抱持者であつた——無政府主義は、全ての政府を排斥し又は外的權力に依る強制を排斥して結合の自由を主張し將來の社會經濟制度としては土地及資

本を手に入れることの自由を主張する理論である。

無政府主義者の考へる結合の自由は現存諸制度の顛覆に依てのみ確立されるのであるから、彼等が露西亞政府と衝突するに至つたのは理の當然である。斯て激しい闘争が始まり、其の結果は一八八一年の皇帝アレキサンダー二世の暗殺となり、帝の後繼者アレキサンダー三世の下に於て此の運動は鎮壓されたのである。

十九世紀の終頃、社會運動は、主としてマルクスの教義の影響を受けて、復活した。日露戦争の失敗の後には、それは更に積極的進歩的の形態をとるに至り、一時は革命的の諸勢力が帝制を顛覆するかも知れない様に見受けられたが、政府は殆ど傳統的の代議機關たるドゥマを復活するの讓歩を爲し、一九一七年の革命まで政權を維持した。

埃太利は一の有力な労働黨を有してゐる。この黨はその主義及方法から見れば大體社會主義的で、共和國政府及多くの諸洲に事務所を有してゐる。埃太利に於ける輿論の態様を示す最も意味あるものは、活動中の社會主義なる標題の下に「クイーンズランド・ライアン政府の創始したる諸州企業の活動の結果」に關する報告が一九一八年クイーンズランド政府に依て公にされたことであらう。立憲的社會主義の手段から見れば新西蘭は世界の諸國中でも進んだものと見られるのも尤である。社會主義は又阿弗利加に於ても根を下してゐる。

戦前に於ては、北米合衆國ほど社會改造の行はれた國はない。黒人奴隷は別として、以前同國には貧困が稀で、社會階級の分離がなく、經濟階級の間には可動性が強かつた。同國は、歐洲の最も企業的な人々の天國で、個人の創意、精力及能力が適當な報酬を受けることの多い國であつた。然しながら、大工業の勃興と發達との爲に巨大なるトラストが多數生じ工業上の獨占權を捷ち得るに至り、遂には平衡を失した富の不平等と之と相並んで最下の經

濟階級に對してさへも極めて高い生活費を將來した。

そこで亞米利加の人民少數の者は、個人主義は社會發展の斷案にあらずと信するに至り、現に社會主義の理論に耳を藉しつゝある。斯様な感情及意見の變化が究極の結果如何になるかをこゝで考察するのは適當でないが、現在北米合衆國に存在する多大の機會が引續き存在し、之を利用するに足る精力及能力を有する人間に利用せられる限りは、社會主義は亞米利加ではあまりに進歩はしないであらう。

南米の諸共和國に於てさへ社會主義は足場を得てゐる。日本には一の社會黨がある。要するに、近代の産業組織が採用せられてゐる國では何れの國たるを問はず社會主義は當然の結果として不安懷疑の精神を惹起せしむるかの觀がある、と斷定してよからう。大戰に至る迄の文明諸國の歴史は、資本主義の發達は又早晚社會主義の發達を意味することを示したのである。

第十一章 戰前英吉利に於ける社會主義

一八四八年の運動の衰亡以來三十年間は、社會主義は英吉利に於ては信用を失墜して何等重大な勢力を有しなかつた、これは半は一八五〇年より一八七〇年に至る間の大好景氣に基因するのであつて、當時英吉利は工業的繁榮の高潮に達し實際「世界の工場」となつた時である。一八八三年の年は一の新運動の出發點と見做してよからう、これは種々の原因に基くもので、ヘンリー、ジョージの煽動、愛蘭の農民問題及大都會の慘禍は其の原因中に數へてよからう。一般の社會經濟理論に關する疑問を多數の人が抱き、疑問は結成して積極的反對となり始めた。一八

八一年に故エッチ・エム・ヒンドマンに依て起された民主主義聯合は一八八四年に社會民主主義聯合となり、マルクスの理論を採用し、多年の間一貫して且斷乎として之を主張し續けた。それは理論に於ても行動に於ても大陸式の社會主義に類してゐた。然しながら、此のマルクスへの忠實と大陸式とが之をして英吉利に於て素地を作ることをより不適當ならしめた、と斷定しても間違はあるまい。選挙に於けるその數と經驗とはそれが示した活動に照應せず、英語を話す國家では此の種の社會主義が成功しないことを指示した。それは一九一二年に英吉利社會黨となつた。一八八五年にはウィリアム・モリス其他社會民主主義聯合より分離した人々に依て社會主義聯盟が作られたが、長くは續かなかつた。

進歩的な革命的な型の社會主義を自ら作り出し之を英吉利の政治に滲み込ますことが、一八八四年早く造られたフエビアン協會の目的であつた。これが極めて小さい團體であるのに、異常に有能な多數の青年が之に参加した。その中にはバーナード・ショウ、シドニー・ウエツプ、ロード・オリビア、グラハムワラス教授の名があげられる。ベサント夫人も亦會員となり、協會は一八八九年フエビアン社會主義論集を公にした、これは英吉利社會主義の基礎をおいた書物である。本運動は急速に英吉利中に擴がつたが、倫敦外では一八九三年に出來た獨立労働黨が之に代つた。

フエビアン協會は、主として倫敦に中心を有する比較的小さい團體として残存した。その會員は、労働俱樂部に對する不斷の講義に依り、又有名な「小冊子」に依り、實際に進歩黨を作り出した、これは一八八九年より一九〇六年まで倫敦カウンティカウンシルを左右し、自由黨の政策に多大の影響を及ぼし、往々にして保守黨の政策に

も影響を及ぼした、協會は大學にも多数の會員を有し、其の理想とする所は上述の會員の著書並に數年間之に参加したエツチ・チー・ウエルスマ、シドニー・ウツプ夫人の著書に依て通俗化された。

獨立労働黨は一八九二年主としてチエー・ケーア・ハーディーに依て組織せられた、彼はサウスウエストハムから代議士に選出されてゐたのである。それは實際上一の社會主義團體であつて、非マルクス主義的で基督教とも相容れその方法とする所は大體立憲的であつた。最初は主としてヨークシアに支部を組織したが後には英吉利の工業地方全體、倫敦にも支部を組織し、若くして思慮ある労働組合員の間急速に勢力を獲て行つた。それは地方選挙では多大の成功を収め、多数の國會の議席を争つては失敗した。

同黨の主たる目的は労働組合大會を説服して自由黨より分離せしめ、自ら一個の政黨を組織せしむることであつた。この目的は一八九九年に達成された。

労働黨は一九〇〇年の初め、労働組合大會議會委員會及上述三個の社會主義團體の招集に係る會議に於て創設せられた。最初は労働代表委員會と名けられ、一九〇三年までは完全な政治的獨立の主義を採用しなかつた。一九〇〇年の選挙では二個の議席を得、補缺選挙で更に三個の議席を得た。一九〇六年にはそれは二十九の議席を獲得して英吉利の政界の一要素となつた。同黨は何等正式の綱領を有しなかつたが實際は其の政策は終始社會主義的で、同黨の代議士は最初の總裁としてチエー・ケーア・ハーディーを選出することに依て其の有する意見を表示した。二箇年の後アーサー・ヘンダーソン彼を繼ぎ、一九一〇年チョーヂ・エヌ・バーンズ又之に代り、一九一一年チエー・ラムゼイ・マグドナルド之を繼いだ。マグドナルドは黨の創設當初より一九一二年アーサー・ヘンダーソンが之に代

るまで黨の幹事たりし者である。

一九一〇年坑夫聯合が同黨に加入し、黨は二月の總選挙で四十名の議員を、十二月の總選挙で四十二名を選出した。一九〇六年から一九一〇年まで自由黨が下院全體の過半数を有し、労働黨は政府を動かさずして自主獨立することが出来た。此の期間に同黨は主として産業問題に關する多数の有用な議案を通過せしむるに成功した。一九一〇年から一九一四年まで自由黨政府は多数派を得る爲實際は労働黨に頼り、そして當面の問題——財政に對する下院の支配、上院の権力及愛蘭自治——の性質に鑑み、黨は是等の議案を危殆ならしめ或は反動を招くやも知れざる行動は何一つ採らない決議をした。それであるからその獨立行動の権力は非常に制限せられてゐた。

斯の如くにして大戰勃發當時の英吉利に於ける社會主義は、政策に於て社會主義的なるも名義上然らざる労働黨に依て、宣傳團體にして労働黨の一部を成し政治上之を通じて活動するところの獨立労働黨及フェビアン協會に依て、又労働黨の系統に屬せず（社會民主主義聯合は一九〇一年に同黨を去つた）且その理念及方法に於て依然マルクスのなる英吉利社會黨に依て、代表せられてゐた。

第十二章 無政府主義、サンチカリズム、ギルドソーシアリズム、ボ リシエヴィズム及び共産主義

無政府主義は、事實に於ても一般の想像に於ても、常に社會主義と密接に結びつけられてゐるが、其の理論は社會主義者の採る理論の正反對である。社會主義者は、社會の救済は資本及土地の共有に求むべきものであると主張

する。無政府主義者は、國家其の他の形式の政府の廢止と、生産手段たる土地及資本の占有者及生産者に依る所有とを信念とする。彼等の理論は主として露西亞人に依て作られたものである。ミハエル・バクーニン（一八一四—一八七六年）は第一インターナショナルの花形役者で又集産主義の使徒マルクスと絶えず鬭争を続け遂に負かされた者であるが、彼は無政府主義の最初の大陸側代表者であつた、後年になつては貴族、探險家、科學者にして最も巧なる會話者たるピーター・クロボトキン公爵が最も顯著な指導者となつた。

露西亞の村落は殆ど自給自足の社會で、その範疇の中で必要なものは何でも生産する、少くとも過去に於てはさうであつた。ツァーの政府は外部的の悪性の暴力であつて、租税を要求し、軍隊の爲に徴兵を伴れ去り、言論の自由を壓迫し、その代償としては村落に對し極僅少の恩恵を與ふるに過ぎない。露西亞の理論家は、富もなく貧もなく、萬人自己の爲に働らき且自ら利用し得る限りは生産の器具を所有するところの村落社會の世界を要求した。鐵道及紡績工場並に産業都市の複雑なる生活が如何にすれば斯様に組織され得るか、彼等は之を説明することも出来なかつたし説明もしなかつた。

無政府主義又は虛無主義は、主として露西亞に於て、西班牙、伊太利及東歐羅巴に於て隆昌に赴いた、是等の地では農耕が盛で、政府は無能且暴逆であつた、少くとも最近までさうであつたのである。政府其のものに對する智的の逆は治者階級、殊に國王及大統領に對する個人的反逆を招來したのは理の當然である。從て熱狂的な無政府主義者、往々にして犯罪者型のもの又は多少精神的缺陷のあるものは、王族及公人を暗殺し、ダイナマイトの爆發に依りて社會を震駭せしめた。然しながら、例へばウィリヤム・モリスの美しき傳説無何有郷便りに於て描寫されたるが

如き無政府主義的社會理論と暴力犯罪との間には何等必然的な關係はないのである。

無政府主義運動は英吉利では決して多大の進歩を遂げなかつた、そして實際的目的あるにも拘らず永い間廢れてゐた。

大陸、殊に佛蘭西に於ては、それはサンチカリズムと稱する理論を生むだ。英吉利で始まつた労働組合は、佛蘭西では一八八四年まで法が禁じてゐた。同年以後労働組合は驚くべき數を以て發生し、無政府主義の問題——資本家たる雇主又は國家なくして鐵道及工場を處理し得べき組織は如何にして之を見出すべきか——に對する解答を與へた。サンチカリズムとは佛蘭西語の労働組合主義に該る。サンチカリズムは、將來の政府は地域の代りに職業を基礎とすべく、全ゆる職業は之を労働組合に組織すべく、中央及地方の政府並に産業は全國的の爲には労働組合大會に、各地域に付ては労働評議會に聯合したる労働組合が處理すべきであるとの提案である。人が成年時代の生活の最良の部分に費すところの職業は其の人間にとつては其の生活する町内又は村落以上のものである、機械工や紡績工にはその住居の隣人に比ぶれば他の機械工又は紡績工の方がもつと關係が重大である、將來は皆が労働者になるであらうから人民は職業に従つて團體に組織せられ、其の職業の機械を所有し支配し、且生産すべき財貨の量及品質其他社會に關する事項全部をば異なる職業と協定しなければならぬ、と主張せられた。決して適當な解決を得ない一の難事は、大概の婦人は其の一生の最良の部分を出産と育児にとられるのであつて斯様な母性のサンチカーは殆ど實現しさうにはない、といふ事實である。サンチカリズムの理論は國內の政府に對してのみならず國際的政府に對しても適合するやうに作り出されてゐる。

サンチカリズムが最初に出来た佛蘭西では、政黨政府の集群制が政治をば個人的陰謀に轉ぜしむる傾があり且これが幾多の腐敗を醸成してゐる。其の結果たる政治家の不信は、労働階級指導者をして政治をけなしてプロレタリアートの直接行動を主張せしむるに至つた、プロレタリアートは、適當なる原因の有無に關せず罷業に依り、又怠業——即ち機械を破壊することと製造中の貨財を故意に損傷せしむること——に依り其の目的を達すべきものとされた。中流階級の見地から見れば、理性よりも本能を高しとする哲學を有するベルグソンの理論は、工夫に工夫を重ねた政治的改造の計畫からよりは寧ろ手近にすぐある手段に依て雇主に打撃を加ふる労働者の直接行動からの方が進歩を生ずるといふ觀念に力を加へるのを常とした。

労働總同盟（即ち佛蘭西労働組合大會）は一八九五年此の名稱の下に組織せられ、サンチカリズムの信念を採つた。其の時より一九一四年迄數次の總罷業其の他の罷業が行はれて多種多様の成功を收め、本運動は概して佛蘭西労働政治の最も重要な因子となつた。

無政府主義の理論の常に盛んである伊太利及び西班牙に於ては、労働組合主義は何等大なる進歩を示さなかつたけれども、サンチカリズムの教義は廣く支持せられた。

亞米利加に於てはサンチカリズム運動は、世界獨立労働者（I, W, W.）と稱する團體の形式を採り、主として罷業促進に専念してゐる。

英吉利に於てはサンチカリズムの觀念は労働組合員の間にも實質的影響を及ぼしたが、一九一〇年より一九一三年まで主としてトム・マンに依て行はれた直接宣傳は、殆ど印象を與へないでしまつた。一九一三年國際サンチカリ

スト大會が倫敦で開かれ、約四十人の代表者が出席したが、其の時以後本運動に付ては殆ど聞くところがない。

これは恐らく英吉利ではギルドソシアリズムが之に代つてゐるといふ事實に主として基くものであらう。ギルトソシアリズムはサンチカリズムに對しフェビアン社會主義がマルクス主義に對すると同様の關係を有する主義である。それはフェビアン協會員であり、又は協會員であつたところの中流階級人士の間に胚胎したもので、集産主義とサンチカリズムとを調和せんとする一の企圖である。政治國家は完全に破壊すべきではなく、滅殺したる權力をば對等の産業國家と配分すべきである。ギルズメンの考ふる所に依れば絶對的に生産者の團體に基礎を有する社會は非實際的であり、消費者を代表する團體としての政治國家は生産に參與しなければならず又生産器具特に鐵道及炭坑の如きものの究極の所有者とならなければならぬ。ギルズメンは、政治地域の議會と中央ギルズ團體即ち榮譽ある労働組合大會とに對し平等な權力を與へんことを提案する。各産業はその産業内の労働者が全然之を支配すべく、労働者は一から十まで支配人を選挙する。ギルドは自分の使つた資本に付ては社會に對し利子を支拂ひ、生産品の量及質は中央當局に依て決定せられる。

ギルドソシアリズムは概して中流階級の運動であつて、其の主な支持者及唱導者は古い大學より出てゐる。それは「新時代」の編輯者及寄稿家に依て始められ、その主たる唱導者はデー・デイ・エッチ・コールであつた。コールは彼のフェビアン協會よりの後に至つて之と分離した労働調査部の幹事たりしことがあつた。ギルズメンの團體は全國ギルズ聯盟と呼ばれた。

戦後間もなくギルドソシアリズム運動は英吉利に於て著しき勢力を得、一二の生産ギルドが特に建築業に於て實

際に作られた。然し是等も成功せず、今日ではギルドソシアリズムに就てはあまり聞えてゐない。それにも拘らず其の唱導者の提示した觀念は、労働條件に對する現在以上の直接支配を得んとする労働者の要求に對し注意を惹くに付て多大の効果を與へ、一般労働運動に於て「労働者の支配」に付て、今日おかるる重要度の増大はギルドソシアリストが宣傳した理論に對する證左である。けれども彼等が主張した特殊の團體制度は最早廣く議論はせられてゐない。

簡単な説明をボルシエヴィズムなる新語に就て試みなければならぬが、これは戦後一般に用ゐられる様になつたものである。それは多数派を意味する露西亞語であつて、露西亞社會民主主義團體の分裂より生れたある黨の名稱であつた。戦前露西亞の社會主義運動は、社會革命の可能となるに先ちて露西亞の人民が發展して、資本家と無産者に分裂しなければならぬこと、マルクスの豫想せるが如くであると信するマルクス主義社會民主黨と、等しく社會主義者ではあるが、露西亞に於ては其の將來は農村地主の現存共產主義團體の進化に存すると考へるメンシエヴィキとに分たれてゐた。

マルクス黨の一部たる過激派は、一九一七年當時ケレンスキーの指導の下にあつた他の社會主義諸政黨を權力より逐ひ拂ふに成功し、爾來ボルシエヴィズムと呼ばれ來つた或種の手段を採用した。彼等の主張に依れば、革命は専ら労働階級(レーニンの如き指導者を含む、レーニンは生れは地主であつた)に依て左右せられなければならぬ、他の階級の参加が拒否せられねばならぬばかりでなく、革命の運動はデモクラシーに對する訴に依て危険を負はされてはならない。そこで彼等は憲法制定會議を解散し——一九一七年六月の全露勞兵代表會議に於ては、政黨を

基礎として選出されなかつた議員三百十五名を別として、七百七十五名の社會黨員中百五十名のボルシエヴィキしかなかつたのである——而して、革命は無智にして感情的なる多数者の代りに、階級意識を有する少数者に依て維持し確保されなければならぬ。といふ口實の下に民主主義を排斥した。

それであるから、ボルシエヴィズムは疑はしい教義的權力の一定理を強く主張するマルクス主義である、サンヂカリズムと指導者の理論よりは寧ろ實際的の要求に基く多くのものとの混物を有してゐる。

世に喧傳せらるるボルシエヴィキの暴行及残忍、人質の虐殺、囚人の苛責其他之に類することは、或事例に付ては眞實なること疑を容れないが、大概は新聞紙の誇張であらう。如何なる場合に於てもそれらは飢饉中及び世界戦争後の革命には附物であつて、社會主義の教義と何等の關係もないことは、佛蘭西革命の恐怖が社會民主主義と何等の關係なく、又近年墨西哥に於ける掠奪及虐殺が共和制と何等の關係もないのと同様である。不必要な流血と残忍とを伴はない革命を遂行するだけの政治的能力を有する國民は、不幸にして甚だ稀少なのである。

ソウエート憲法は粗雑な且幼稚な民主主義的方法であつて、之に従へば夫々の小地域は教區評議會の如き支配的委員會を選出する、教區評議會は集つて代表者を送り地方評議會を組織し、其の代表者は縣評議會を組織し、縣評議會の代表者は國會を組織する。此の原始的制度は代議政治が物珍しい様な露西亞の國には多分適合するかも知れないが、他國が眞似て以て裨益する所あり得る長所は何一つ有してゐない。露西亞憲法の特徴は、筋肉労働者の階級のみが投票権を有すること、都市ソウエートよりも多数の代表者を中央ソウエートに送ることである。憲法は工場代表の規定は之を設けてゐないが、實際はサンヂカリズム的方針に基く職業代表があるといふ。

戦後、共産黨と稱する一團體が英吉利に表れて來た。共産黨の教義はカール・マルクスが宣傳し且露西亞のボルシェヴィキが採用した舊觀念より成つてゐる。事實共産黨は露西亞の共産主義團體より出で、其の系統に屬してゐる。階級戦、プロレタリアートの獨裁、ブルジョア國家の破壊、怠業及暴力的革命行動が共産黨に依て主張せられる。其の觀念中には新なるもの又は西歐のより教養ある民主主義の抱負及能力を斟酌せんとするものは何一つ之を見出し難い。従て共産黨が英吉利に於て等何驚くに足るほどの共鳴者を得ることが出來ないのも怪しむに足らない。共産黨は再三労働黨に加入しようと企てたが（労働黨は其の目的と手段とを以て強硬に不賛政を宣明した）、何れの場合にも強く排斥され、拒否された。

一九二五年中、共産黨の主要黨員十二名、何れも執行部にある者が、治安攪亂を目的とする不正文書を刊行せんとし且民衆を煽動して一七九七年の陸海叛亂法に對する違反行爲を爲さしめんと共謀した廉で、檢擧せられた。彼等は全て有罪と断定せられ入獄の判決を受けた。共産黨の主張する方法は現在に於ては英吉利では不法のものであることは、今では明瞭となつてゐる。右の事實其の他の理由からして、將來共産黨の活動に關しては多く聞くことがないであらう。

第十三章 新インターナショナル

社會主義が如何に文明世界の諸國全體に擴がりつゝあるかは、吾人既に之を讀んだ。次には是等國內的團體が聯合して一の新インターナショナル、否其の中或ものは現在互に相争ひ、又は相争ひ來つたところの多數のインターナ

ショナルとなる運動の跡を尋ねなければならない。

舊インターナショナルは一八七三年頃死滅した。然しながら、國際的聯合に向ふ傾向と之を求むる希望とは絶えなかつた。間もなくして之に向ふ新しい努力が拂はれた。インターナショナル大會は、大革命の百年目一八八九年に巴里に於て、一八九一年ブラツセルに於て、一八九三年チューリッヒに於て、一八九六年倫敦に於て、一九〇〇年再び巴里に於て、又一九〇七年スツットガルトに於て、一九一〇年コペンハーゲンに於て、開かれた。而して大戰に妨げられたが其の次の大會は一九一四年八月維納に開かれる筈であつた。ブラツセル及倫敦の大會では不秩序を極めた爲に同情ある觀察者でさへ新インターナショナルの實際性に關し尤な疑問を挿むほどであつた。倫敦大會での經驗に従ひ其の後は事務處理の秩序を改善するの手段が講ぜられた。

一九〇〇年の巴里大會ではブラツセルに國際社會主義局を作る方法を講じた。同局の任務は大會の事務の秩序を整へ、國內團體の報告を受け、採用された決議の記録を作ることであつた。

一九一〇年のコペンハーゲン大會には二十三箇國を代表する八百九十六名の代表者が出席し、代表員は獨逸人百八十九名より亞爾然丁の代表者一者まで種々あつた。投票方法は改正された。従前は各國民は二票宛を有してゐて其の結果として、濠太利、塞耳比亞、希臘其の他國際的に重要でなく又は政治的に存在しない諸國を代表し且種々何第政治的立場を有しない煽動者の曖昧團體の代辯を爲すところの少數の代表者が、幾百萬の社會主義者及労働組合員を有し且長き政治的責任の經驗を有する英吉利、佛蘭西、及獨逸の代表者を凌駕することがあつたのである。スツットガルト大會は各國民に一定數の投票を割り當てた、即ち獨逸、奧太利、ボヘミア、佛蘭西、英吉利、北米

合衆國及露西亞は各二十、其の他の國々はもつと少数で、最少限二票を得た。

コペンハーゲン大會は、(一)コーペレーションと社會主義との關係、(二)労働組合、(三)國際仲裁々判及び軍備廢止、(四)失業に關する立法、(五)一般決議、の論議を爲す爲に五の委員會に分たれた。委員會が作成し大會が採擇した諸決議は消費組合の衷心からの賛成を記録し、コーペレータース、労働組合員及社會主義者の間には友誼的關係が役定せらるべきことを切論した。労働組合も亦賛成を與へられ、労働組合中の民族的分野は不賛成となつた恐慌の時に及び保險公立工場に依る國家の失業救済も要求せられた。國際仲裁々判と一般的軍備廢止とが主張せられたが、代議士ジエー・ケーア・ハーデーイ(英吉利)及エム・ヴェーラン(佛蘭西)の戦争停止の爲に總罷業を求めんとする修正は、五十一票に對する百三十一票を以て否決された。

戦争に先づ數年間、ブラツセル局の活動は急速に増加した。不撓不屈の幹事エム・カミーユ・ヒスマンは、加入國内の從屬團體と絶えず通信した。數箇月間毎月同局はエム・エミール・ヴァンダアヴェルトの主宰の下に會合した。彼は、白耳義聯立内閣に加はり我が國に於けるその代表として活動したので英吉利では戦争中有名であつた。同局は二十八箇國を代表し、その各國を派遣する資格があつた。

戦争の勃發を防止するの見地からすれば、インターナショナルは失敗であつた。而して運動全體が、國際労働階級の協調は大切な時期に崩壊した、といふ動かすことの出來ぬ事實の爲に、信念を缺いた所があつた。局自體は獨の白耳義占領に依て活動力を失ひ抗敵國內の社會主義者と労働組合員との間の直接の通信は不可能となつた。けれども幹事は二の連鎖として中立國の社會主義者と接觸を保持し、如何にして戦争を中止すべきかといふ問題に專

ら意を注いだ。斯の如くにして、一種労働階級外交ともいふべきものが發達し、これが遂には有意義な結果を與へた。會議開催の便宜は各交戰國政府の拒否する所となつたが、若し假にそれが開催されたとしたならば露西亞革命の全過程が一變したであらう。けれども國際代表者の聯合より成る多少非公式の會合は、倫敦及海外に於て多數開かれ、遂に一九一七年に及んで極めて重要な一會合がストックホルムで開催された。ストックホルムの會合は、佛蘭西、英吉利及白耳義の會員が獨逸の社會主義と會合することを拒否した爲に、インターナショナルとしての聯能を行使することは出來なかつた。然しながら、各國支部は何れも幹事に對して其の戦ひつゝある目的如何を明言しなければならなかつた。斯くして労働階級の戦争目的に關する完全なる聲明書が得られたのである。このストックホルムの會合は爾後の諸件に對し著しき影響を與へた。

多くの諸國に於ける労働運動及社會主義運動は戦争に依て二面に、否寧ろ三面に分裂した、戦争を経験せんとする政府に衷心より反對するもの、戦争續行に付政府を支持するもの、並に時として一方を支持し時として他方を支持する中間のもの、これである。

瑞西、伊太利及露西亞の各支部を除く第二インターナショナルの會員全部の大會は、一九一九年エミール・ヴァンダーヴェルト、アルバート・トーマス及アーサー・ヘンダーメンの主唱に依りベルヌに於て開かれた。其の眞の目的は、労働階級をして平和條約を打立つべき基礎に關する觀念を作り、交戰國內の労働階級の親交を促進することを得しめんとするにあつた。三十六箇國より百〇二名の代表者が出席した。

此のインターナショナル復活の企圖は徹頭徹尾失敗であつた、それは第一には佛蘭西及び獨逸の多數社會主義者

間の反目の爲であり、第二にはインターナショナルの基礎となつてゐる民主的社會主義の舊原理を再び肯定せんと欲する人々と、露西亞其の他の共產主義者の主張する破壊的且革命的の方法に偏する人々との分離の爲であつた。ベルヌ大會を破壊せんとするの確定的計畫は、莫斯科側が之を爲した。労働階級のインターナショナル運動は三の集團に分れたこと、又一九一九年ベルヌに會合したところの集團は英吉利、白耳義、和蘭、瑞典、丁抹の労働黨及び社會黨、並に獨逸に於ける夫等の黨の多數派、加ふるに追放迫害せられたる匈牙利社會民主黨、チェツク人、ヂョルヂア人及び伊太利・佛蘭西・瑞西に於ける小數派等より成り、組織労働者の大部を眞に代表してゐた。其の他の諸黨は共產黨に参加するか、又は國際社會黨聯合（維納聯合）と稱する團體の掩護の下に優柔不斷な中立政策を採用するかした、同聯合は獨逸獨立黨、佛蘭西の諸黨、瑞西・埃太利及英吉利の獨立労働黨を包含したものであつた。聯合の企圖は一九二二年伯林に於て開かれた會議に於て試みられたが、露西亞共產黨の極端且非妥協的態度が如何ともし難い協同の障礙となつた。然るにも拘はらず共產黨領袖は「犠牲を問はざる共同戦線」の合言葉に依て支持を求めざる爲の大膽な人氣取をやつた。

この點よりして事物は速に轉變した。一方に於ては莫斯科側と復活した第二インターナショナル員との間の缺隙が根本的となつたこと、他方に於ては維納聯合が共產主義と社會主義との合一インターナショナルが不可能であることを理解し始めつゝあつたことが明となつた。維納聯合は右翼に振られて、新しい且更に包摂的なインターナショナルの建設は單に時日の問題となつた。

事實、新労働社會主義インターナショナルが出来たのは一九二三年五月漢堡に於てであつた。三十箇國が四十三

の黨若は團體の代表者四百二十四名に依て代表せられたのであつた。

労働社會主義インターナショナルは、資本主義及支配より労働者を經濟的に解放するの主義及社會主義共和國の建設を認むると誓つてゐる。

一九二三年以來労働社會主義インターナショナルは其の地位を著しく固く強くした。現時會員七百萬を超え、極めて最近の選挙に於ては之を組成する黨に屬する國會議員候補者に投ぜられた投票の總計は三百萬に及んでゐる。産業方面に於ては戦後右に劣らぬ重大な事件が起つてゐる。

一九一九年、阿姆斯特ダムに於て國際労働組合聯合が作られたが、これは一般に阿姆斯特ダム、インターナショナルとして知られてゐる。其の目的とする所は、諸國の労働組合間の緊切なる關係を進展せしむることに依り萬國労働階級の統一を實現し、國內的にも國際的にも労働組合運動の利益及活動を促進し、社會立法を進め且戰爭を回避するにある。聯合は、全國中央労働組合團體——即ち夫々の國家に於ける労働組合大會又は之に類するもの——より成る。各國の労働組合の全國的中央團體が一つだけ参加を認められるのであるが、投票權は代表せられる労働組合員の數に比例する。同聯合の處理支配は、執行委員會、總評議會及大會の手にあり、大會はインターナショナルの政策を定める。今迄大會は一九一九年阿姆斯特ダムに於て、一九二〇年倫敦に於て、一九二二年羅馬に於て、同年海牙に於て、一九二四年維納に於て、開かれた。一九二三年全員數は千五百萬を超え、獨逸が第一で六百二十九萬三千三百五十九名、第二が英吉利で四百三十二萬八千二百三十五名を有してゐる。重要な一發展は聯合に併行した職業インターナショナルの組織で、聯合が之を認可獎勵する。斯て三十ばかりの特殊の職業が夫々獨自

の國際労働局を建設して居つて、聯合自體と密接に協同して活動してゐる。國際労働組合聯合は又労働組合婦人部の國際委員會を作つてゐる。

國際労働組合聯合と労働社會主義インターナショナルに依て代表せらるゝ國際労働階級運動の政治的團體との間には密接な關係が維持せられてゐる。労働組合の共通目的は、團結行動に依て労働階級の經濟的及社會的狀態を改善することであるが、彼等自ら用ふる言葉を以てすれば、之に加ふるに「労働者は又政治的自由と政治生活に於ける無制限の勢力とを要求して闘争しなければならない。この闘争を指導することは労働政黨の任務である。」

共産インターナショナルは、西歐の社會黨及労働黨團體の大衆とは全然分離して、限定された方面で依然活躍してゐる。其の第二回第三回及第四回大會は夫々一九二〇年、一九二一年及一九二二年に莫斯科に於て開催せられた。既に上に述べた國際労働組合聯合に對應するものとして、一九二一年七月赤色労働組合の第一回國際大會が行はれた。所謂赤色インターナショナルは、階級戦を信念とする革命行動のインターナショナルたることを自ら明言し、ブルジョア國家に終末を告げしめ、共産主義を樹立し且プロレタリアートの獨裁を確保するの目的を以て共産インターナショナルと共にプロレタリアートの勢力を團體に組織するの地位にあると明言して居る。其の規約は進んで目的とする所は國際聯盟の國際労働事務局及國際労働組合聯合に對する戦争を行ふことを包含すると述べてゐる。

國際労働事務局は一九一九年國際聯盟と共に設けられた公の團體で、國際労働立法促進の目的を有してゐる。紙面の餘裕がないから其の組織及活動に關して詳細に論ずる譯に行かない。

第十四章 戦時中及び戦後の社會主義

戦争の初期は、佛蘭西及び世界中の社會主義に、取返しつかぬ損害を蒙らした。佛蘭西の黨の領袖にして最も勝れた雄辯家たり、恐らくは佛蘭西第一の政治家であつたジュアン・ジョーレスが暗殺せられたのである。全世界の社會運動に於て彼程確實な地位を保持してゐる人間は誰一人残されてゐないのであつて、其の重要な時機に際して彼が死んだことは國際的の不幸であつた。

戦争があるかないかまだ判然しない頃のこと、獨逸社會民主黨は戦争反對の抗議を爲すため、數日間全國に亘つて大會合を開いた。然し其の活動は徒勞であつた。もつと小仕掛で同様な努力が英吉利其他の地の社會主義者に依て試みられたのであるが、戦争が始まつて了つた曉に於ては、各國に於ける優勢なる意見は、戦争は防衛的である、少くとも正義の擁護の爲である、といふにあつた。獨逸人は、佛蘭西と露西亞が結合して獨逸人に攻撃を加へんとしたのであり、英吉利は獨逸の繁榮を羨むの餘り参加したのであるといふことで、支配者から説伏せられた。佛蘭西人及び白耳義人は自國を以て侵略者と見るの理由を有しなかつたし、英吉利労働黨の大部分は英吉利は袖手傍觀することを得ないのだと認めた。

國際社會主義は從來常に戦争の罪を鳴らし、軍國主義をば資本主義の貪慾に歸して來た。戦争は總罷業に依て、でなければ人民の動員拒否に依て停止せられるであらう、と多數の者は想像してゐた。或は、感激の時に當ては通常國民感情は國際感情よりも強いのを常とするといふ事實を認むる者もあつた。

鬼もあれ、國際主義は崩壊した。全體としての労働階級と其の指導者の大部分は、何れの側に於ても其の背後に連り、從來常に反對黨の地位にあつた労働黨及社會黨は、自國の政府に支持を與へるに決したのである。英吉利に於ては、労働黨は戦争繼續に就て終始政府を支持した。黨の幹事アーサー・ヘンダーソンは、聯立政府に参加し、戦時内閣の一員であつた、後彼はデー・エヌ・バーンズと代つたが、バーンズは機械聯合の前幹事である。尙其の他多數の労働組合領袖が内閣の重要な地位を占めた。休戦後同黨は、舊諸政黨に對する反對黨たる正規の地位に復するに決したのであつた。

戦争の一般的影响は、労働の勢力を甚だ強めたことである。一三四年の黒死病以來初めてのことであるが、必要な仕事をするに足るだけの人間が殆ど全ゆる職業に於て不足であつた。戦争繼續の成功する爲には——即ち糧食及び軍需品の供給の爲には——人の労働を爲すに付ての賃銀及諸條件の問題が一番重要となつた。

總理大臣及其の同僚は、「デイリユーション」と婦人労働の難問、徴兵と軍務の諸條件とに關聯した無數の諸點を解決するに先つて、労働組合領袖の同意を得なければならなかつた。労働の支持は政府にとつて必要不可欠のものであり、其の支持なかりしならんには戦争の繼續は殆ど實行不能となつたであらう。

概して此の支持は必任せであつたのであるが、有力なる少數派は平和主義と稱せらるゝ政策を採用した。獨立労働黨と其の主なる領袖とは、此の點に關しては英吉利社會黨の平黨員の支持を受けたが、一方戦争に熱心に賛成した同黨の領袖は國民社會黨と稱する新國體を組織した。

労働黨自體は徹底的に寛容な態度を以て行動した。熱心な戦争の支持者と平和主義領袖とは相共に黨の評議會に

列り黨の活動に付て共に働いた。平黨員が奉仕的に活動せる人々に對し盡した忠實は、不評判な平和主義の原理の主たる唱導者としてマグドナルドを指摘した事實あるにも拘らず彼と黨の會計係及下院の首領として一齊に選挙したことに依て立派に表示された。

一方大陸に於ては、社會主義史上第一の事件が起りつゝあつた。露西亞が東道者となつた。一九一七年春、皇帝が退位した時、社會黨が唯一の殘存した組織ある勢力であることは直に明となつた。其の僅々數年前迄は社會主義者は社會主義者として往々西伯利亞に追放されたのであつたが、現在は社會主義の指導者を措いては同國を支配し得る者は誰一人ない。社會主義の辯護士ケレンスキイが、數箇月間殆ど獨裁者となつてゐたが、崩壊して士氣沮喪した露西亞陸軍を提げて戦争の参加を持続せんと努力するの過誤を侵し、極端な社會民主主義の指導者レーニン及トロツキーの爲に顛覆した。レーニン及びトロツキーの特殊の獨斷は、有名なる名稱ボルシエヴィズムの章下に既に之を説明した。

露西亞の共產黨領袖の失敗又は成功の程度は、議論に亘る事項を叙述するの時にあり、之に關しては確實に云爲することは不可能である。今現れてゐる唯一の確かな斷定は、同國が其の大部分を飢饉、内亂、列強の敵對行爲及び國內の專制の爲に苦しんだところの七年以上の間を權力を有してゐたのに、露西亞の共產主義の政治は、歐羅巴で最も強く固められた政府であるらしい、といふことである。

更に夫以上驚くべきは獨逸に於ける事件の經過であつて、同國では社會黨の政治的勢力は常に正確に知られてゐた。皇帝が蒙塵した時、宰相は社會黨の領袖を招請して政府を經營せしめた、其の時以來獨逸の歴史は社會主義者の

鬼もあれ、國際主義は崩壊した。全體としての労働階級と其の指導者の大部分は、何れの側に於ても其の背後に連り、従来常に反對黨の地位にあつた労働黨及社會黨は、自國の政府に支持を與へるに決したのである。

英吉利に於ては、労働黨は戦争繼續に就て終始政府を支持した。黨の幹事アーサー・ヘンダーソンは、聯立政府に参加し、戦時内閣の一員であつた、後彼はデー・エヌ・バーンズと代つたが、バーンズは機械聯合の前幹事である。尙其の他多數の労働組合領袖が内閣の重要な地位を占めた。休戦後同黨は、舊諸政黨に對する反對黨たる正規の地位に復するに決したのであつた。

戦争の一般的影響は、労働の勢力を甚だ強めたことである。一三四年の黒死病以來初めてのことであるが、必要な仕事をするに足るだけの人間が殆ど全ゆる職業に於て不足であつた。戦争繼續の成功する爲には——即ち糧食及び軍需品の供給の爲には——人の労働を爲すに付ての賃銀及諸條件の問題が一番重要となつた。

總理大臣及其の同僚は、「デイリユニオン」と婦人労働の難問、徴兵と軍務の諸條件とに關聯した無數の諸點を解決するに先つて、労働組合領袖の同意を得なければならなかつた。労働の支持は政府にとつて必要不可欠のものであり、其の支持なかりしならんには戦争の繼續は殆ど實行不能となつたであらう。

概して此の支持は必任せであつたのであるが、有力なる少數派は平和主義と稱せらるゝ政策を採用した。獨立労働黨と其の主なる領袖とは、此の點に關しては英吉利社會黨の平黨員の支持を受けたが、一方戦争に熱心に賛成した同黨の領袖は國民社會黨と稱する新國體を組織した。

労働黨自體は徹底的に寛容な態度を以て行動した。熱心な戦争の支持者と平和主義領袖とは相共に黨の評議會に

列り黨の活動に付て共に働いた。平黨員が奉仕的に活動せる人々に對し盡した忠實は、不評判な平和主義の原理の主たる唱導者としてマゴドナルドを指摘した事實あるにも拘らず彼と黨の會計係及下院の首領として一齊に選挙したことに依て立派に表示された。

一方大陸に於ては、社會主義史上第一の事件が起りつゝあつた。露西亞が東道者となつた。一九一七年春、皇帝が退位した時、社會黨が唯一の殘存した組織ある勢力であることは直に明となつた。其の僅々數年前迄は社會主義者は社會主義者として往々西伯利亞に追放されたのであつたが、現在は社會主義の指導者を措いては同國を支配し得る者は誰一人ない。社會主義の辯護士ケレンスキイが、數箇月開始と獨裁者となつてゐたが、崩壊して士氣沮喪した露西亞陸軍を提げて戦争の参加を持続せんと努力するの過誤を侵し、極端な社會民主主義の指導者レーニン及トロツキーの爲に顛覆した。レーニン及びトロツキーの特殊の獨斷は、有名なる名稱ボルシェヴィズムの章下に既に之を説明した。

露西亞の共產黨領袖の失敗又は成功の程度は、議論に亘る事項を叙述するの時にあり、之に關しては確實に云爲することは不可能である。今現れてゐる唯一の確かな斷定は、同國が其の大部分を飢饉、内亂、列強の敵對行爲及び國內の專制の爲に苦しんだところの七年以上の間を權力を有してゐたのに、露西亞の共產主義の政治は、歐羅巴で最も強く固められた政府であるらしい、といふことである。

更に夫以上驚くべきは獨逸に於ける事件の經過であつて、同國では社會黨の政治的勢力は常に正確に知られてゐた。皇帝が蒙塵した時、宰相は社會黨の領袖を招請して政府を經營せしめた、其の時以來獨逸の歴史は社會主義者の

諸團體の軋轢より成るに至り、革命までは多数の追隨者を有してゐたところの諸政黨は明に背後に隠れてしまつた本小冊子に於ては、獨逸社會黨の内部の論争に就ては數言を述べることしか出来ないか、カール・リーブクネヒトは古い社會主義の指導者の息子で、常に戦争に反対し、前から黨の目に附く人物となつてゐたところのローザ・ルクゼンブルグと共に、絶えず確實に數と勢力とを増大して行つたところの平和主義者の一團を指導したのであつた。而して遂にこの舊黨より新團體が生じ、獨立黨なる一團を組織した。此の新團體は再び二に分れた、温和平和黨とスバルタシストとがそれである。これはカール・リーブクネヒトの號に倣つてつけた名で、彼は古代羅馬に於ける反逆を爲した奴隸の指導者の名前である、スバルタカスの署名を以て多数の論文を書いたのであつた。スバルタシストは極めて急激な社會主義者で、當時露西亞で優勢であつたボルシエヴィストの政策を採用した。彼等が暴力に依つてソウエト制度を建設せんとするの企圖は、多大の闘争の後に失敗に歸し、二人の領袖は、未だ確實に叙述することの出来ない様な事情の下に、多分自己の護衛者の爲に捕へられて殺された。次いでスバルタシストは獨逸共產黨の中核となつた。獨立黨の他の一翼は、一九二二年社會黨多数派と再び聯合し、聯合獨逸社會民主黨を組織した。それ以後、社會民主黨は極めて長期の間政權を獲得し、溫和に、且常識を以て政府を經營したらしく、食糧、及燃料の缺乏に關する緊急の問題が解決されるまでは、産業の組織的構造に付ての變改は何れも賢明に延期した。

戦後海外の社會主義の進歩に關し起つた發展を全部叙述することは、輪廓だけにしても紙面の都合上不可能である。大體から謂へば、大陸諸國は二つの大きな集團に分けてよからう。共產主義又は社會主義が暴力的革命の方法

に依て建設せられ、往々内亂を伴ひ又時として同様な暴力的反動の相次いだところの諸國、社會主義の到來が進化的手段に依て進み、或場合には社會黨及自由黨に依て組織せられた聯立政府を伴つたところの諸國がそれである。

第一の範疇には、露西亞、芬蘭、奧太利、伊太利及匈牙利が當嵌まり、第二の範疇には白耳義、丁抹、瑞典及英吉利が當嵌まらう。露西亞に於ける運動は既に之を述べた。芬蘭は一九一八年迄は露西亞と漠然たる聯合を爲してゐたが、同年民族的の獨立を成就して同國は民主的農民共和國となつた。「白色恐怖」がボルシエヴィストの支配の崩壞に次で起り、國民は内亂で二派に分れた。農民は最初は舊支配階級の攻撃に對して其の新に得た利權を擁護したが、民主主義の進むに連れ、先に協同したところの勞働者に對して敵對するに至り、ブルジョアジイに賛成し且社會民主黨が利害を代辨するところの土地を有しない村落プロレタリアに反對するやうに一變した。

奧太利に於ては、暴力革命の次に安固な立憲政府が生じ、一九二三年社會民主黨は全投票中五分の二を得、國民議會に於て百六十五の議席中六十八を得た。社會黨も亦維納の市會に於て多数黨たるを得た。伊太利に於ては社會黨と共產黨との分裂が起り、ムソリニの出現を可能ならしめた。

白耳義に於ては一九二五年に於て勞働黨は十四萬八千票（二十二パーセント）を獲て、議會に於ける七十九名の議員を以て同國に於ける最強の政黨を組織し、斯て聯立政府に入つて行つた。丁抹に於ては、一九二四年に行はれた總選挙は社會民主黨が同れの政黨よりも多数の議席を得るの結果となり、同黨は丁抹最初の純粹社會主義政府として朝に立ち、急進黨の支持を受けたが形式的の盟約又は提携はなかつた。

瑞典に於ては一九二四年の選挙は、社會民主黨に西歐の社會黨中最高率の投票を與へた、即ちその率は四十

一パーセントであつた。同黨は下院に於て二百三十の議席中百〇四を有し、上院に於て百五十の議席中五十二を有した。而して一九二四年十月、左翼ブルジョアジイに支持されて、故ヤルマル・ブランテイングを首相として朝に立つた。ブランテイングは最初の社會主義代議士であつて、黨の建設者であつた。右は瑞典に於て出來た第三次の純粹社會主義政府で議會の少數派を基礎とするものであつて、第一次は一九二〇年に組閣された。

右の如き簡單なる大陸に於ける發展の輪廓からして、安固な政府を支持する社會黨が今後數年の中に世界で最高の發達を爲した最大の諸國の何れかに政府を行ふとしてもそれは驚くに足りない、といふことが看取され得るのである。

第十五章 イギリスの勞働政府

將來の歴史家は、一九一四年を以て十九世紀の終末と見るに違なからう。一九一四年—一九一八年の世界戰爭の勃發は、國家主義と私資本主義的企業との二勢力の發達の頂點であつた、而してこれ等のものの發達が特に十九世紀を特徴づけるのである。

右の頂點は同時に又没落點であつて、過去十年間歐洲を席捲した革命及反動は、事物の舊秩序が去つて新形式の社會上の組織及政府が之に代る事實を徴表するものであることは萬間違がないと思はれる。振子は兩方向に搖れたのであるから、新しい形式は其の取つて代つた舊制に比して勝れたものもあらうし、劣つたものもあるかも知れない。斯の如くにして露西亞、匈牙利、奧太利、獨逸、丁抹、瑞典其他に於ては左翼への暴力的運動があつたし、

他方伊太利、西班牙、匈牙利其他に於ては右翼への反民主主義的運動が起つた。こゝで特に強調すべきは只現時に於て起つてゐる蜂起の性質の廣汎なることである。これ等の變化は多くの場合に於ては王朝の倒壊を伴つてゐる民主主義的進歩の母國である英吉利に於ては、斯の如き時勢が最も重要なる社會的變化に依つて特徴づけられることは、正に刮目して期待すべきものであつた。而して此の期待は裏切られなかつたのである。

現世紀中の勞働黨の選舉に於ける進展は、英吉利に於ては稀にしか起らぬ程の根深い變化の徴である。然しながら、外部の結果は急速に表れたのであるが、それは既に述べた如く長期間に亘つて徐々に胚胎しつつあつた運動の成果に外ならない。

一九〇〇年、勞働黨は十五の議席を争ひ、六萬二千六百九十八票を以て右の中二を獲た。一九一〇年迄に黨は四十の議席と五十萬の投票を得た。一九一八年の「カーキ」選舉に於ては、勞働黨の得票は一躍二百二十五萬に上り、五十七名の議員が議會に送られた。四箇年の後には百四十二の議席と四百二十五萬六千七百三十三の投票を得、翌年（一九二三年）には僅少の得票増加で百九十一の議席を得た。

保守黨の首領ボールドウインは、一般關稅に付國民の意見を問ふ爲議會を解散して國に歸つた。選舉は保守黨の大敗北であつたが、其の結果同黨は、自由貿易論を採つたところの勞働、自由由黨を合一したるものに對する絶對多數を有せざるに至つた。ボールドウインは朝に立つことを拒み、院内勞働黨——同黨は既に主要なる反對黨の地位に到達してゐた——その首領ラムゼイ・マクドナルドが組閣の天命を拜した。此の天命が受けられて、一九二四年一月、英吉利最初の勞働政府が、ラムゼイ・マクドナルドを首相として朝に立つた。各地位は一の地位を除いては、

悉く労働黨の黨員の占むる所となり、只蘇蘭法律官と宮廷の或程の儀式的官職を例外としたのみであつた。

労働政府は、下院に於て多數黨を有しないといふ創業の大下利を以て、其の任務とする所に當面した。自由黨の首領アスキス(現オクスフォード卿)は、概括的方法で曖昧に政府を支持することを約したが、院内の労働、自由兩黨の間には在朝前にも在朝中にも何等定まつた協定なく、選挙では公然の反目が盛んであつた。上院に於ては政府の支持者は甚だ少數の貴族のみより成り、其の多くは組閣に際して任命せられたものであつた。

在朝中労働黨の成し遂げた所は、議會の多數黨を有たぬことに依つて生じた打勝ち難い障碍を考慮に入れて見れば、小さい仕事ではなかつた。その最も卓れたものは、倫敦會議の結末の成功であつて、西歐の經濟生活及社會生活全體を破滅に導かんとしたところの賠償問題に關する長い間の論争が、獨逸及び佛蘭西のドーズ案採用に依つて此の時一先つ解決を見たのである。斯くの如くにして招來された状態の改善は、佛蘭西に起つた政變が無かつたならば恐らく不可能であつたかも知れぬ。佛蘭西では佛蘭西議會の多數社會黨の首領エリオールがポアンカレの後繼者となつたのであつて、此の佛蘭西の状态の變化は英吉利の選挙結果の影響に基くこと大である。

労働政府の其の他の業績は、教育及び各種社會事業の發達と、從來我國其の他の國に於て工夫せられたこともある國家補助の家屋建築大計畫の樹立である。

外務大臣としてのラムゼイ・マクドナルドの成し就げた第一の所業の一は、ソウエート共和國の正式承認であつた。それ以上の協調の企圖は、兩國の間の難問及び未済の國債を解決する爲に露西亞政府を倫敦會議に招請することに依て試みられた。此の會議に於て英吉利の借款が露西亞側から提案せられ、英吉利の外務大臣は其の考を容れ

る準備をした。ところが其の考に對する反對が漸時擴がつて來て、續いて朝にあることが出來なくなりさうであつたところへ、檢事總長が一共產主義者(其の名はキャムベル)の陸海軍叛亂の煽動に付ての訴追を中止せることに關する極めて些細な事件に依り、事件の進展は妨げらるゝに至つた。件の法官は政府中の左翼よりの政治的壓迫により其の決定を爲すに付影響を受けたものであると傳へられ、明確なる否認と完全なる説明とが政府の手で與へられたが、調査の要求ありて之が拒否せられ、政府は自由黨の背反に依つて敗北し、マクドナルドは桂冠して議會を解散した。

其の結果たる選挙は、極端な混合戦と悪感情とで汚辱されたものであつた。最後の瞬間に至つて、保守、自由兩黨の熱心なる反露運動に次いで、有名なジノビエフの書翰が公にされた。此の書翰は、ソウエート政府が英吉利政府の關係改善の爲に商議しつゝあつた丁度其の時機に於ける、對英吉利の不信を示すものであつた。右書翰に於て、共產インターナショナルの執行委員長たるジノビエフは、英吉利に於いて内亂及階級戦を招來すべき意味を有することを公然と明言してゐた。

右書翰の眞偽如何は今以て決定せられてはゐない。けれどもそれは選挙に於ては莫大な結果を生じ、労働黨は昔時の百九十一名に引替へて僅か百五十一名を議會に送つたに過ぎなかつた。然しなかなか、労働者の投票は殆ど五百五十萬に上り——前の最高記録を越ゆること一百万以上である——而もこれは保守、自由兩黨が多くの方々に於て合同して、労働候補を敗北せしめんとした事實あるにも拘らずさうであつたのである。

保守黨は、他の何れの政黨よりも多數を得て、再び朝に立ち、労働黨は政府反對黨の地位に復し、斯て英吉利の

近代史に於て最も意味の深い挿話は終を告げたのである。

第十六章 新社會秩序

労働内閣出現の重要性は、労働黨が「執政に適してゐる」の證明に之を求むべきでもなく、又短い九箇月の存続期間中に於ける労働政府の立法上及行政上の業績にも、運動が自信と威信とに於て大いに得る所があつたといふ事實にも、或は自由黨が比較的劣勢の地位に引下げられた點に、之を求むべきでもない。右に關する本然の意義は、英吉利の狀勢上社會主義が占むるところの地位に存する。實際生活からかけ離れた少數男女の抱持する粗野な抽象的理論の切端に過ぎないものと、從來多數の無知の人民が考へてゐた社會の概念が、一舉にして歐羅巴中 strongest の産業國の政府の、正式にして公言された政策となつたのである。議會の創始者たる國家、民主的自活と立憲的自由の母國は、又社會主義の母國たることが知られた。固より社會主義の旗印は其の性質上特に英吉利的ではあるが、それにも拘らず總ては完全なる意味に於ての社會主義共和國の建設を招來することあるべきものである。

英吉利の社會主義の目的は、他國と同様、經濟生活の改造である。労働組合員は自己の運命の緩和以上のものを要求する賃銀増加と時間短縮とは全て結構ではあるが、これだけでは充分でない。坑夫及鐵道従業員は、自己をして富裕なる傭主の賃銀奴隷たらしむるところの制度に、終末を告げしめんと決意してゐる。彼等は社會の爲には労働するが、私資本家の爲には最早労働することを欲しない。

右の如きは新社會秩序に向ふ第一の段階で、そこでは産業は、社會に依て、社會の利益の爲に、多くは労働者と

協調して經營されるであらう。それ以上の計畫は其の後に至つて表れるであらう。

労働黨の綱領の述ぶる所に依れば、同黨の目的は、筋肉及精神労働者の爲に、産業の全成果を確保し、生産手段の共有と各産業及事業の民衆的經營及び支配の最善の制度とを基礎として出來得る限り均衡の取れた生産品の分配を確保するにある。

労働黨は斷乎として建設を欲する。其の提案は斷乎として主張された原理より生じてゐる、即ち改造は膏藥細工であつてはならない。改造しなければならないものは社會其のものに外ならない。世界の現状は、労働者が改造せんことを求めないところの特殊の産業文化の行詰りと崩壊とを示してゐる。一九一八年に公刊された「労働と新社會秩序」に於て、又次で黨の正式の政策となつたところの文書に於て、シドニー・ウエツプは、運動の最も深い信念を次の如く言ひ表はした。「土地及資本の私有と競争競争とを基礎とする資本主義的生産の個人的制度は——これは過去二世紀間に傳的な形式となつたもので、向ふ見すの「儲け主義」と賃銀奴隷とを伴ひ、生活費の爲の自由なる闘争の禮讚と「適者生存」の偽善的口實とを有し、それが生ぜしむる境遇の甚だしき不公平等と其の結果たる道德的及び精神的の墮落及び蠻風を伴ふ——思ふに死の打撃を受けたであらう。これには政治上の制度及び思想が伴はなければならぬ。それは政治上の制度及び思想の中に當然現れたのである。

若し國民的衰亡を避けんとするならば、「直に建設すべきものは、闘争に基かずして友愛に基く新社會秩序である——單純なる生活費を求むる競争闘争に基かずして、肉體又は精神に依り参加する人々全體の福祉の爲の生産及分配、付慎重計畫された協同に基く」物質的境遇の健全なる平等に基く、産業上及び政治上の平等なる自由、一般的

同意々識、眞の民主々義の特性たる經濟的及び政治的の權力に出來得る限り廣く參加することに基く新社會秩序である。

勞働黨の認むる所に依れば、物質の生産の増加が絶對的に必要であり、これは賃銀低下又は時間延長に依て求むべきでなく、浪費を輕減する爲の産業の社會化に於て、又科學、智能及び組織を生産に應用することに於て、之を求むべきである。

改造の提案の四綱目は次の如くである。

- (一) 國民最小限の一齊強行。
- (二) 産業の民主的支配。
- (三) 國家財政の革命。
- (四) 餘剰の富の共同福祉の爲の利用。

第一に擧げたものは、景氣不景氣を問はず、健全なる生活と價值ある公民に必要なもの全部をば、社會の各組成員一人残らずに對して、確保せんとするものである。其の方法とする所は、工場法、教育法、住宅法、最低賃銀法及公衆保健法を強固にし、擴張し、改善するにある。婦人は其の自由に對する現存の法律的制限より徹底的に解放さるべく、又平等勞働に對する平等賃銀の原則が採用さるべきである。

英吉利國民は、心を社會の奉仕に向けずして——存在の法則其のものに依り——只出來得る限りの利潤獲得に傾けてゐるばらばらの私的傭主の押し合ひ仲間に英吉利の産業を任して構はないことに存する混亂、浪費及無能の改

造又は永續に何時までも堪へ忍ぶといふことは、勞働黨は絶對に之を信することを拒絶する。

黨は土地國有を目的とし、鐵道及鑛山の即時國有化を目的とする、それは中央に於ても地方に於ても各段階の用人が支配に参加するのを漸時増大することを以てする。電氣を安く供給する爲に、大發電所を國家が建設しなければならぬ。産業保險は公衆保險事業を助長する爲に國有化しなければならず、各種の生命保險も同様に取扱はなければならぬ。酒類の製造及販賣は禁酒促進の爲に政府が行はなければならず、地方官憲は許可を扱ふには全權を有しなくてはならない。

石炭及びミルクの供給其の他の取引經營に對する地方團體の活動の擴大、教育の改善及び住宅改良は、社會主義政策の全部であつて、是等の提案は地方的綱領を伴ひ、その地方的綱領は土地國有、「國有農場」、小借地、「農業の地方團體經營」及協同(分配)組合の耕作を包含してゐる。農産物の分配は協同組合又は地方團體の機關を通じ消費者之行ふべきである。

財政に付ては、勞働黨は保護關稅の提案を全て斷乎として拒け、食糧品及生活必需品の課稅に反對するものは、スノウデンが勞働政府の第一次豫算案に於て、食糧品に對する間接稅の全部を實際上一度に廢止した事實の示す通りである。戰時債償還の爲めには、同黨は生存中及び絶亡の際の私有財産の直接課稅に倚らんとしてゐる。所得稅は個人を止めて家族に割當て、現在の最低控除の限度を引上ぐべきである。

右の如き手段、其の他に依り、「生活費以上の餘剰」は、共同の福祉の爲に保有し、新事業、科學的研究、病人、幼兒及び老人への給與、教育、各種の公共的改善の爲の基金として使用しなければならぬ。階級の貧困と全ての廣

きに亘る窮乏とは之を除かねばならず、又労働者の生活は、休養慰安の方法を大いに盛にすることに依て、輝きあるものとしなければならぬ。労働黨を舊政黨と最も明確に區別する所以のものは餘利を残らず共同福祉の爲に充用するといふ右の考へに存する。

帝國と各國民の共和國に對する黨の態度に關しては、同黨は「利己的にして島國根性の非干涉主義」を排し、帝國の維持と、地方的自治及「大英同盟」下の「各國自活」との方針に基く帝國の進歩發展とを目的とする。黨は、聯邦帝國が、若し帝國の組成部分に對し強制的權力を揮ふ共通帝國法を包含する提案であるならば、それに反對する。他國民の經濟戰は之を非とする、國民は相互の繁榮又は商業上の進歩に依て決して損害を受けるものでなくして、實際はそれに依て富裕となるのである。

全てこれらの細かな提案は、英吉利に於ける社會主義運動の諸目的のほんの一部分を成すに過ぎない。其の全綱領を包括した説明を爲さんと試みるのは、茲に利用し得る紙面を以てしては、不可能であらう。何れにしても其の綱領は絶えず變化しつゝあり、且改新されつゝあるものでなくてはならないことは必然であつて、最早必要喫緊事ではなくなつた部分はこれを振り捨て、運動が進んで成熟するに伴れ當面するに至るところの新問題を、處理すべき部門を新に増大して行かなければならないのである。

運動が一定の時點に於て眼前に有する直接の任務にも増して主要なもの、實に是等の任務全體の根柢に横はる精神である。複雑なる近代文明の諸問題を解決するには、「善意だけでは足りない」と説かれてゐるのであつて、労働運動は社會科學の進歩をば必要不可欠の目的としてゐる。其の目的は不變であらうが其の政策及綱領は、知識の

進むに伴はれ不斷の發展を蒙ることであらう。若し法律が自由の母であるならば、科學は労働黨にとつて法律の父であらねばならない。

善意だけでは足りないことは足りないかも知れないが、大社會運動の根柢に横はる精神の重要なは無制限であつて、これに比べれば其の他のものは何れも塵芥の様なものである。英吉利の社會運動を鼓舞した精神は、(反對者の傳ふるが如く)指導を誤られるかも知れぬが、然しそれは卑劣なものではない。如何なる愛他主義の努力と雖も、社會主義に於て表はれてゐる感情、即ち汚穢、醜劣、貧困、不幸、近代生活の束縛より男女を解放せんとする感情程人類の精神を燃え上がらせたものはない。炭坑夫はサンチイ委員會に對し、炭坑自身の望む所は自由及責任であると述べた。それが即ち、社會主義者が、負荷に堪へ得る人間全部に對し與へんと欲するものに外ならない。(終)

1. 本報自創刊以來，對於社會公益，無不竭力贊助。其所以然者，蓋本報之宗旨，在於開通民智，改良社會，而社會之改良，實賴於輿論之公論。本報之輿論，實為社會之公論，故本報對於社會公益，無不竭力贊助。

2. 本報對於社會公益之贊助，實為社會之公論。本報之輿論，實為社會之公論，故本報對於社會公益，無不竭力贊助。

3. 本報對於社會公益之贊助，實為社會之公論。本報之輿論，實為社會之公論，故本報對於社會公益，無不竭力贊助。

4. 本報對於社會公益之贊助，實為社會之公論。本報之輿論，實為社會之公論，故本報對於社會公益，無不竭力贊助。

5. 本報對於社會公益之贊助，實為社會之公論。本報之輿論，實為社會之公論，故本報對於社會公益，無不竭力贊助。

SP 78



